

RANGERS PROJECT. 2012

認定NPO法人 自然環境復元協会
レンジャーズプロジェクト
平成24年度 成果報告書

1 . レンジャーズプロジェクト プロローグ

2 . レンジャーズプロジェクト コンセプト紹介

里山が放棄される背景

レンジャーズプロジェクトの仕組み

広域化の仕組みづくり

登録者分析（よこはま里山レンジャーズ、埼玉レンジャーズ）

レンジャーズ登録者（隊員）分析

2012 年度活動実施一覧

経緯

レンジャーズプロジェクト 実施 MAP

3 . フィールド紹介

トーキョーレンジャーズ

- ・サンシティ内緑地（板橋区）
 - ・杉並区立柏の宮公園（杉並区）
 - ・墨田区立隅田公園（墨田区）
 - ・夢の島公園・夢の島熱帯植物館（江東区）
 - ・世田谷トラストまちづくり せたがや野川の会（世田谷区）
- 鎌倉レンジャーズ
- ・鎌倉市立鎌倉中央公園（神奈川県鎌倉市）
- 埼玉レンジャーズ
- ・高倉郷屋敷林（鶴ヶ島市）
 - ・飯盛川 環境復元予定地（鶴ヶ島市）
- よこはま里山レンジャーズ
- ・恩田の谷戸（青葉区）
 - ・カーリットの森（保土ヶ谷区）
 - ・荒井沢緑地（横金沢区）
 - ・桜ヶ丘緑地（保土ヶ谷区）
 - ・川井緑地（旭区）
 - ・JFE エンジニアリング（株）鶴見製作所（横浜市鶴見区）

4 . 様々な主体との協働事例

- ・NECソフト株式会社 CSR 推進部
- ・株式会社資生堂 技術アライアンス推進部
- ・企業の方へのレンジャーズプロジェクト参加のアンケート結果

5 . 企業の方へのレンジャーズプロジェクト参加のアンケート結果

6. 参加者レポート

- ・竹入祐美子様
- ・一般参加のみなさん

7. 有識者の声

- ・河合太一氏（横浜市環境創造局政策課）

8. 協力者の声

- ・里山保全におけるレンジャーズの意義について（社会学的観点からの意義）
＜NPO法人よこはま里山研究所（NORA）代表理事 松村正治氏＞
- ・トーキョーレンジャーズでの仕事場カリキュラムの実施と効果
＜専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科教員 井上綾子氏＞

9. インターンレポート

- ・リーダーとして ＜長期インターンシップ生 金子雅佑君＞
- ・レンジャーズ促進のために＜玉川大学 農学部 生物環境システム学科3年 町田望美さん＞
- ・自然環境復元協会インターンシップ
＜専門学校国際情報工科大学校 地域環境学科2年 近藤孝史君＞

10. 効果の検証

- 利用者の保全活動参加への意識からみる緑地保全ボランティア人材派遣システムの特徴
＜千葉大学大学院 園芸学研究科 博士前期課程 高瀬唯氏＞

11. 広報・PR活動等

A) 講演等

- ・レンジャーズ・プロジェクトのパンフレット作成のプロボノ事例の紹介
- ・麻布大学ゲストスピーカーとして登壇

B) メディア掲載等

- ・J-wave LOHAS SUNDAY
- ・FM 横浜 E-ne!（イーネ）～good for you～」！

12. 実施団体より

- ・レンジャーズの活動と自然環境保全 立川周二＜自然環境復元協会レンジャーズ担当理事＞
- ・自然と人の多様性 - ビオトープ・ネットワークとヒューマン・ネットワーク -
上原 励＜自然環境復元協会レンジャーズ担当理事＞
- ・レンジャーズプロジェクトへの思い 伊藤博隆＜レンジャーズプロジェクト コーディネーター＞

『この森を守れなくなるから、 木を全部きって 芝生にしようと思っているんだ・・・』

ある団体の代表がもらしたこんな一言から、レンジャーズは始まりました。

この団体は、20年もの間、地域の自然を守るために
活動を毎週のように続けてきました。

そして、この場所は地域にとって欠かせない大切な自然となりました。

しかし、活動メンバーの高齢化に伴い参加者が減り、
活動の継続が困難となってきてしまったのです。



『この森を守るため、 みんなでお手伝いにいこう！』

この活動をお手伝いさせて頂いたことをきっかけに、
東京近郊の様々なフィールドに出向いてお手伝いする企画
「トーキョーレンジャーズ」を立ち上げました。
東京などの都市の中にも多くの自然があり、
都市型の里山として市民の生活に密着しています。
それらの自然環境を保全するため、
たくさんの環境再生医や環境活動団体が活動を行っていますが、
多くのフィールドで人員不足などの理由により活動が困難な状況です。

『身近な自然を守りたい』

そして、2012年、先人が守り育ててくれた自然を
次世代に引き継ぐため、
また、より広域に活動を展開していくためのボランティアシステム、
「レンジャーズプロジェクト」となりました。

活動概要

2. レンジャーズプロジェクト コンセプト紹介

レンジャーズプロジェクトは、ボランティアを必要としている地域と、緑のボランティアを結び付けるのが目的です。

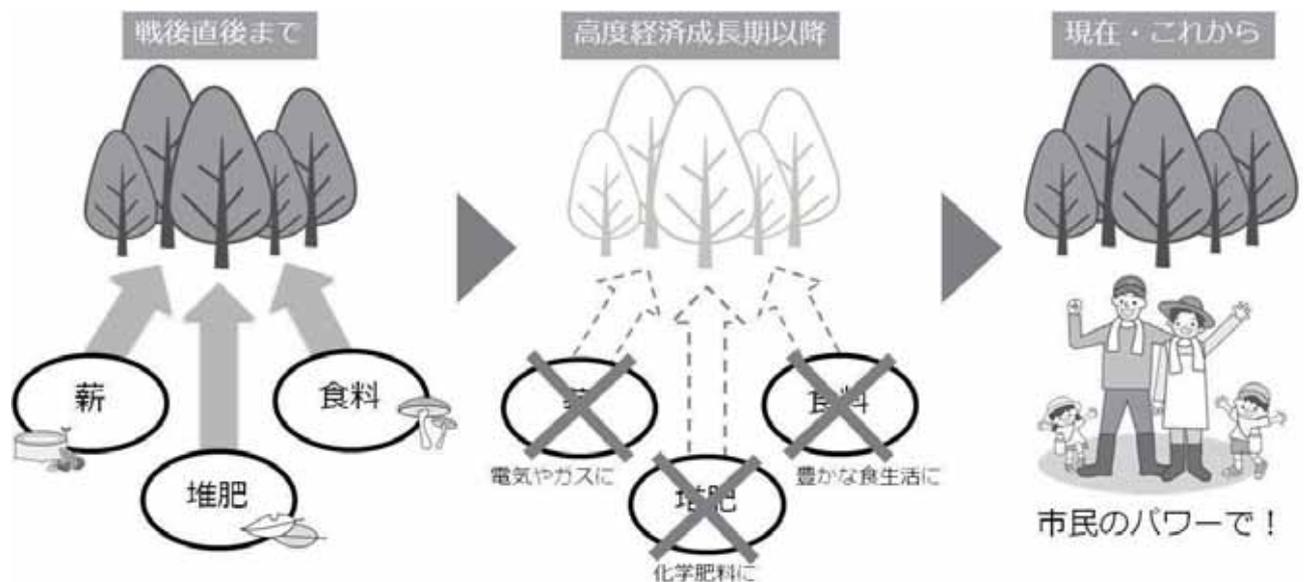


特定非営利活動促進法が施行され、多くの団体がNPO法人化し、今や環境NPOの登録団体数は10,000を超えています。しかし、地域活動団体の構成メンバーの高齢化などにより活動継続困難な団体も多く、また、ボランティアの参加者は年々増えているものの、環境NPOへの参加は十分とは言えません。そのような状況の中、地域に密着した環境活動団体への人材不足を解消することを目的に、若手ボランティア人材派遣活動「トーキョーレンジャーズ」がスタートしました。「トーキョーレンジャーズ」は、潜在的ニーズであった「関心はあるが活動できない人材」を行動へ結びつける活動として評価をいただくまでになりました。そして、活動支援に至るまでの手法をノウハウとして構築し、広域での活動につなげることを目的とした「レンジャーズプロジェクト」へと発展しました。将来的には、地域の環境活動団体が新たな担い手を育成・確保し、緩やかな世代交代を行うことを目指します。

・里山が放棄される背景

そもそも、なぜ、自然や里山が現在のような状況になったのでしょうか。

昔、人々の暮らしは里山に支えられてきました。人々は里山に生えている木を炭や薪として利用してきました。また、どんぐりやキノコ、栗は食糧となり、落ち葉は堆肥として重宝されました。日々の暮らしを営むために、人々は里山の資源を利用しつつも守りながら、緑豊かな森が維持されてきたのです。しかし、時が経つにつれて里山は資源として利用されなくなっていきます。例えば、家庭用燃料が薪や炭から、ガスや電気などへと変化していきました。また、化学肥料が普及すると手間のかかる落ち葉堆肥は作られなくなり、雑木林が経済性を失うとともに、里山に目を向けなくなっていきました。



利用されなくなった里山はどうなってしまったのでしょうか。里山の多くは住宅地になってしまいました。高度経済成長時代に都市に流入した労働力に住居を供給するためだったそうです。また、残った里山も管理がなされず草木が生い茂り、人が入れる環境ではなくなってしまいました。人が入らなくなった里山は、ゴミが投棄されるなど、ますます人が寄り付けない場所になっていきました。

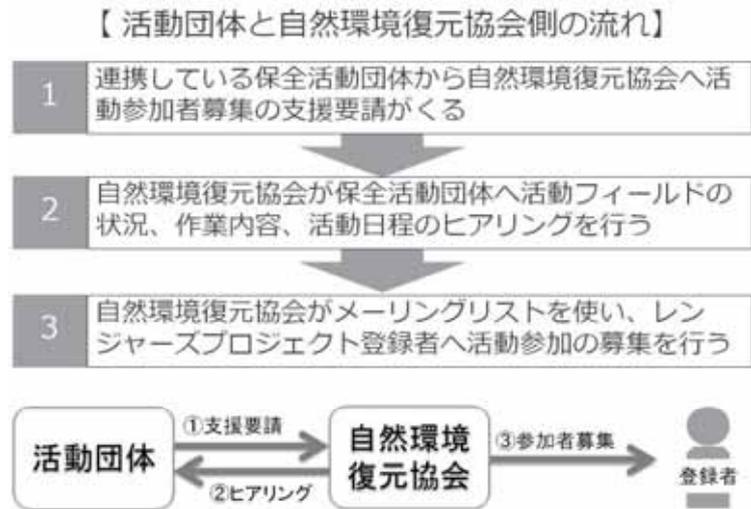
里山が荒れる一方で、かつての環境を取り戻そうと立ち上がったのが、それぞれの地域で活躍されている環境活動団体です。市民のパワーで、日本全国の多くの里山や自然が再生されてきました。現在日本では世界に向けて、「SATOYAMA イニシアティブ」を発信しています。再び、里山は注目され始めています。しかし、多くの活動団体は活動を開始して長い年月が経ち、活動メンバーの高齢化により里山の維持が危機に面しています。

緑豊かな森ができるには50年以上かかります。さらに、その森で色々な生きものたちが豊か暮らすにはどれくらいかかるのでしょうか。一度失った緑を取り戻すことは簡単ではありません。私たち市民が自然豊かな里山を守るためには、若い人を活動に巻き込むことが必要です。

様々な活動団体とボランティアをしたい人をつなぎ、緑豊かな里山や自然環境を次世代へと引き継ぐお手伝いをする。それがレンジャーズプロジェクトの目標です。

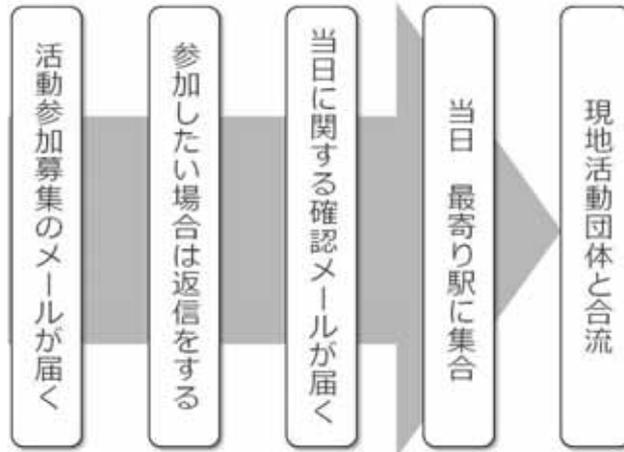
活動概要

・レンジャーズプロジェクトの仕組み



一般公募により申し込まれた団体の中から、緊急性が高いと判断した団体に、訪問によるヒアリングを行います。活動内容や安全管理の意識などを伺い、「信頼がおける活動団体である」と判断した中から、連携する活動団体（受入団体）を選定します。その後、受入団体から自然環境復元協会事務局へ支援要請が入り、具体的な活動日程や活動内容の調整を行います。

【登録者の活動参加までの流れ】



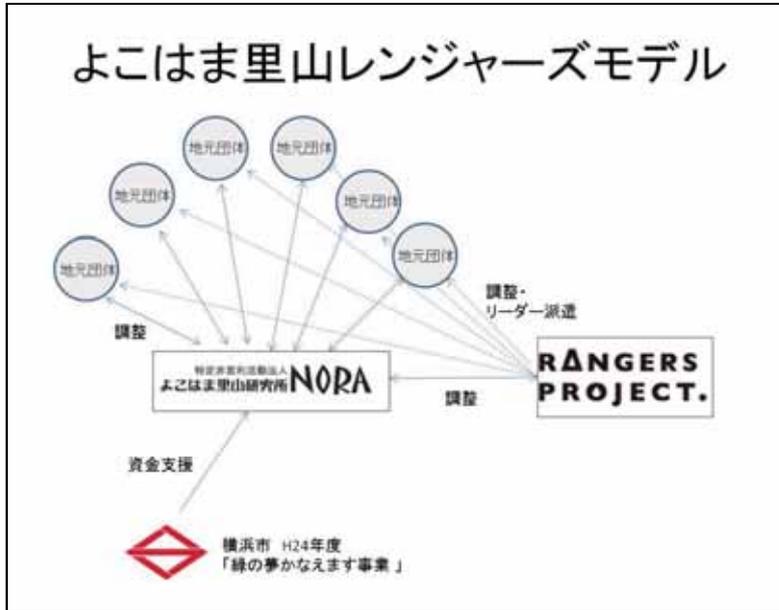
調整をして活動日程が決定すると、自然環境復元協会事務局からレンジャーズプロジェクト登録者へメールで活動のお知らせが送られます。その活動に参加したいと思ったら、登録者はメールで返事をします。参加者には、当日までに事務局から当日の詳細に関するメールが送られます。参加者は、当日、活動場所の最寄り駅に集合します。そこから、事務局スタッフがフィールドまで参加者を案内し、現地で参加者と現地活動団体が合流します。レンジャーズプロジェクトでは、ただ活動参加者を募集するだけでなく、活動日当日における参加者と活動団体間のコミュニケーションもお手伝いします。

、活動日当日における参加者と活動団体間のコミュニケーションもお手伝いします。

広域化の仕組みづくり

レンジャーズプロジェクトを実施する中で、「より様々な地域で実施して欲しい」という声も多く、より広範に実施するように展開しました。しかし、自然環境復元協会事務局だけではマンパワーに限りがあるため、地域の実情をよく知る中間支援組織と協働することで広域にて展開することができました。

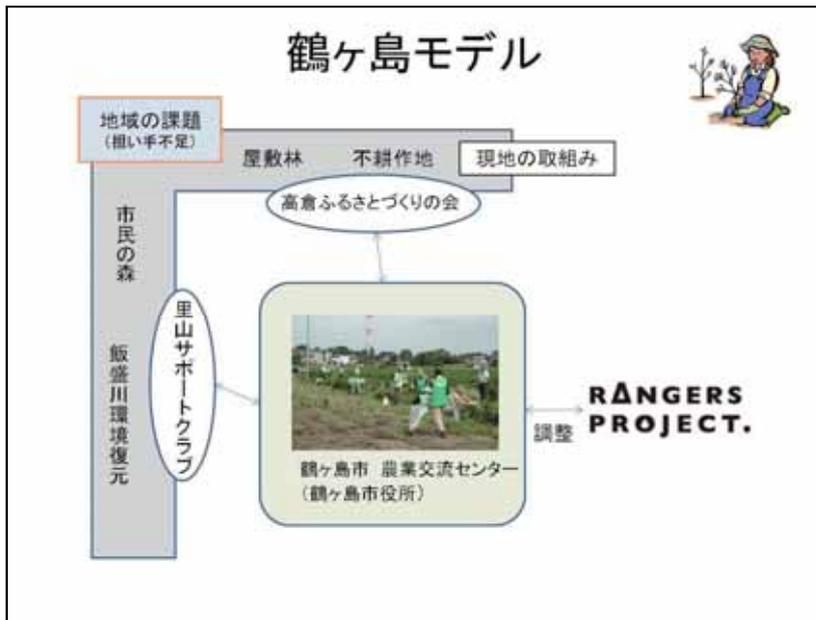
【横浜】NPO 法人よこはま里山研究所 (NORA) によるコーディネートにより実施



今年度から開始した「よこはま里山レンジャーズ」は、横浜の緑の中間支援として活動してきた NPO 法人よこはま里山研究所 (NORA) との協働事業として実施しています。横浜で広くネットワークを持つ、NORA の強みと、若い世代を中心に緑のボランティアを希望する人とのネットワークを持つ、レンジャーズプロジェクトの強みが融合したものです。今(平成 24)年度は、NORA が横浜市の公募事業の資金支援を受け実施し、レンジャーズプロジェクトと協働で実施しています。横浜市内 6 か所で、地域の緑地保全活動

を実施する団体にレンジャーズを派遣していますが、奥深い里山あり、駅のすぐ近くでの活動あり、工業地帯の企業内緑地ありと、横浜の地域資源を生かしたバラエティに富んだ活動が魅力です。

【埼玉】鶴ヶ島市農業交流センター (鶴ヶ島市役所) によるコーディネートにより実施



埼玉レンジャーズは、鶴ヶ島市内の「高倉ふるさとづくりの会」、「里山サポートクラブ」の2団体をお手伝いしています。地元団体の活動メニュー調整などを、鶴ヶ島市役所の農業交流センターのコーディネートにより実施しています。

これにより、より細かいプログラム設定が可能となり、また農業交流センターの行事と連動するなど、様々な相乗効果が生まれています。

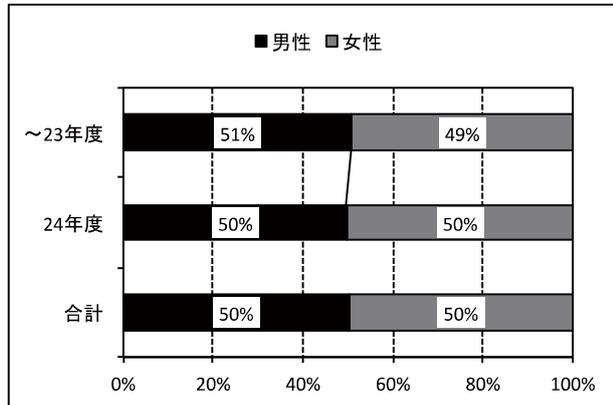
活動概要

レンジャーズ登録者（隊員）分析

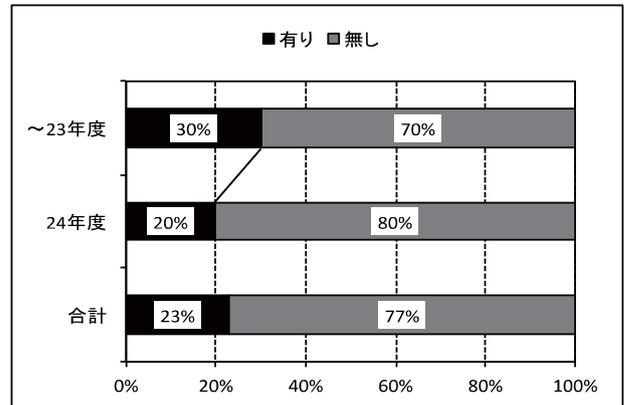
平成 23 年度（2011 年度）までに登録された登録者データと平成 24 年度（2012 年度）に登録された登録者データまとめると以下の様になった。平成 24 年 3 月～平成 25 年 2 月を 24 年度とする。

23 年度までの登録者数 247 名、24 年度の登録者数 552 名、合計 799 名（退会者除く）

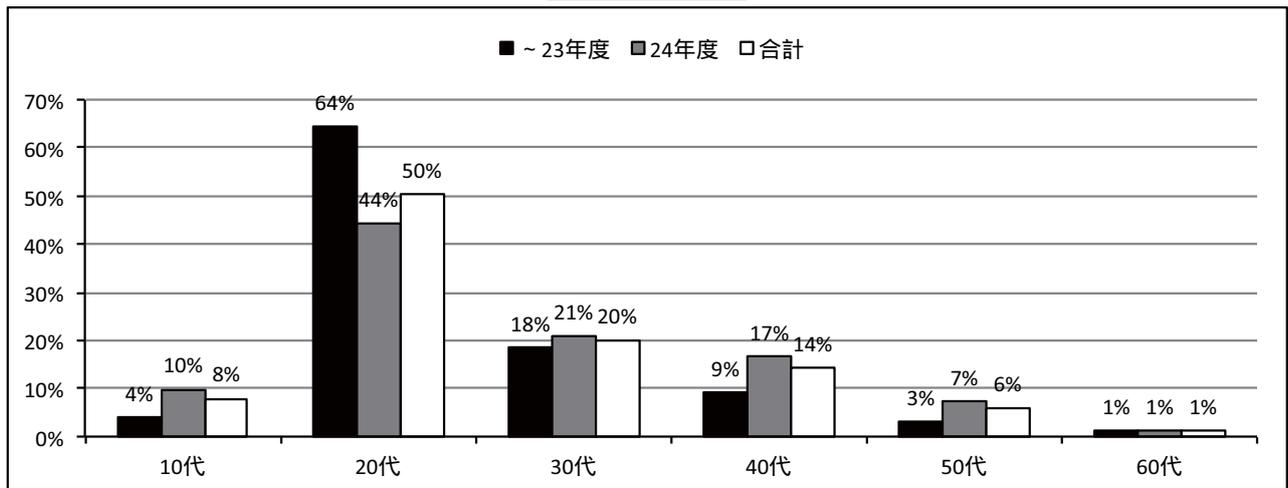
性別



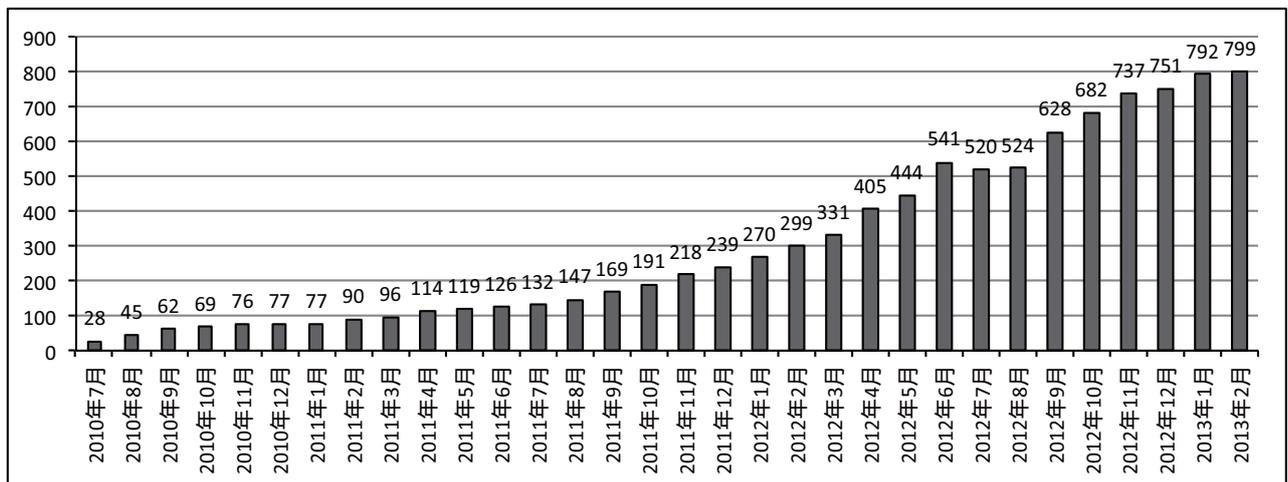
緑化活動経験



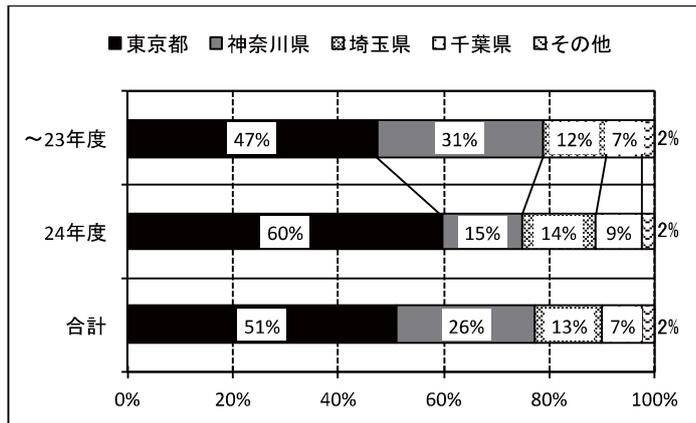
年齢層



登録者推移（人）

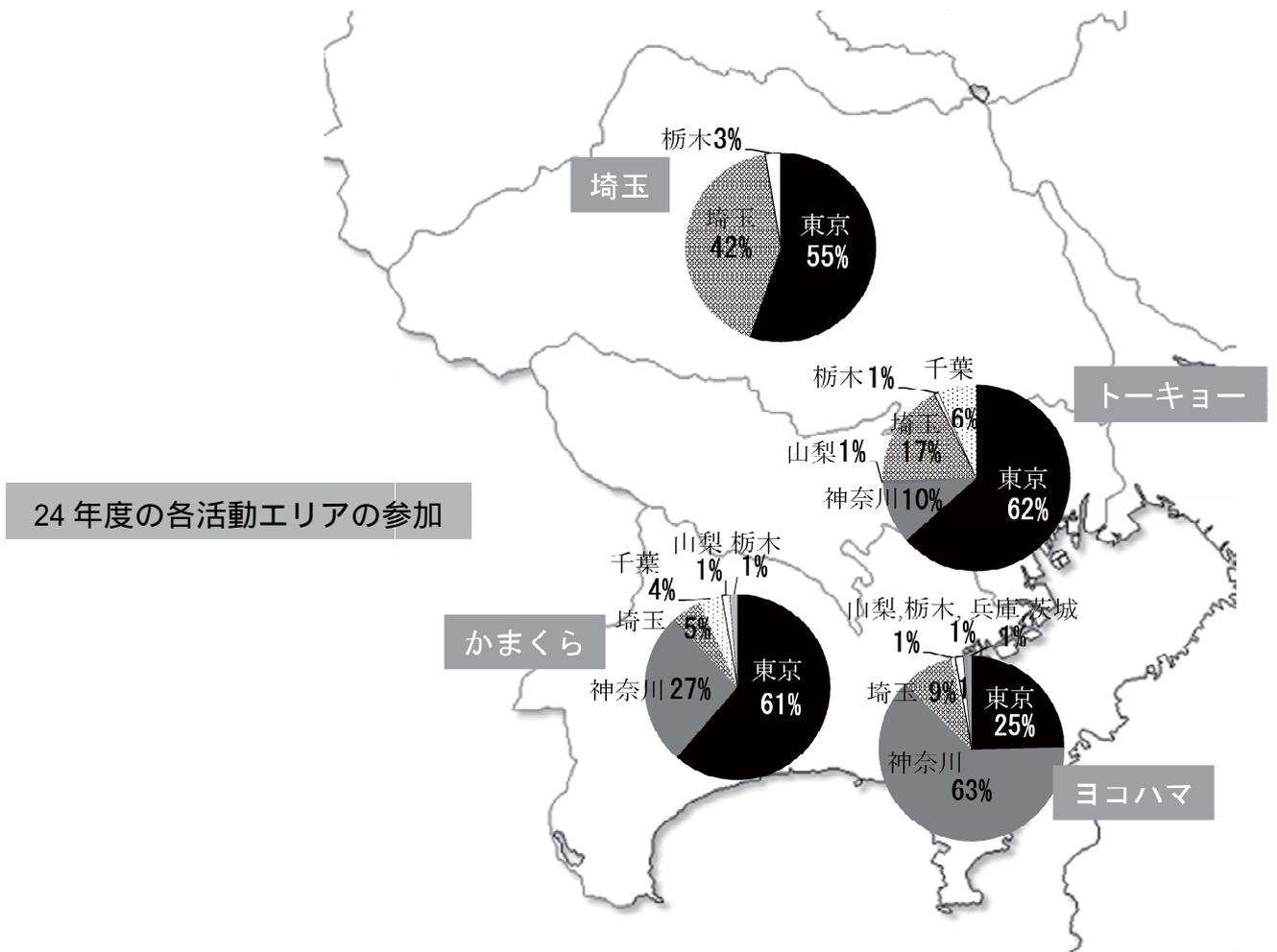


居住地



その他

栃木県、茨城県、山梨県、静岡県、
長野県、宮城県、福島県、兵庫県、
海外



【まとめと考察】

性別に関しては前年度までと今年度の登録者の傾向にほぼ差がみられず、どちらも男性・女性が半数ずつであった。緑化活動経験に関しては、今年度の登録者において「経験なし」の人が1割増加していることがわかった。年齢層に関しては、どちらも20代による登録が最も多いことがわかった。登録者推移をみると24年度だけで500名程増加している。レンジャーズプロジェクトの活動フィールドの広がりとともに登録者数の規模も増加しており、確実に活動規模が拡大していることが言える。また、各活動フィールドエリアの参加者の構成をみると地域外の参加者もある程度の人数がいることがわかり、地域外からの参加も活発に行われていると考えられる。

活動概要

2012 年度活動実施一覧

年 NO.	状況	活動日	参加 人数	支部	フィールド	作業内容
1	完了	2012/4/15	11	東京	サンシティ	雑草取り。下枝落とし。チップ用枝運び。お花見パー ベキュー会にて意見交換。
2	完了	2012/4/15	10	鎌倉	鎌倉中央公園	苗床づくり+「谷戸塾」
3	完了	2012/4/21	9	東京	葛西臨海公園	パードウォッチングセンターの池で葦刈り作業
4	完了	2012/4/28	17	東京	柏の宮公園	公園内の草と筍の間引き作業
5	完了	2012/5/4	13	鎌倉	鎌倉中央公園	田うまい+昼食会
6	完了	2012/5/6	24	東京	サンシティ	森の整備+昼食会(支給!)
7	完了	2012/5/19	12	東京	世田谷区野川流域	外来種(ブタクサ・アレチウリなど)の除草作業
8	完了	2012/5/20	11	東京	柏の宮公園	選別除草とザリガニの捕獲
9	完了	2012/5/26	11	東京	隅田公園	桜への栄養付与とひまわり花壇作り作業
10	完了	2012/6/9	4	東京	夢の島	自然薯の植え付けイベントをお手伝い
11	完了	2012/6/23	16	東京	鶴ヶ島市高倉地区	作業 ...不耕作地の草刈り 農業体験...ジャガイモ 掘り作業 ...イベント準備(竹の燭台、椅子、模擬店 などの設営)
12	完了	2012/6/23	5	東京	柏の宮公園	植生バランス維持のための草抜き
13	完了	2012/6/24	46	東京	NECチャリティー ハーブガーデン	ラベンダーを華麗に収穫
14	完了	2012/7/15	13	東京	鎌倉中央公園	田んぼの草取り、土の掻き混ぜ作業。
15	完了	2012/7/28	15	東京	柏の宮公園	マンション敷地内の森の剪定作業のお手伝い
16	完了	2012/7/28	12	東京	サンシティ	自然公園の保全(杉並区)
17	完了	2012/8/4	7	東京	隅田公園	桜の枝の剪定
18	中止	2012/9/8		東京	サンシティ	
19	完了	2012/9/15	13	横浜	桜ヶ丘緑地	下草刈り、森の手入れ
20	完了	2012/9/16	10	鎌倉	鎌倉中央公園	畑の草取り・草刈り作業。
21	完了	2012/9/22	7	横浜	カーリットの森	下草刈り、伐採した木の整理、里山作業全般
22	完了	2012/9/22	7	東京	夢の島	イベント運営補助
23	中止	2012/9/23		横浜	恩田の谷戸	谷戸作業
24	完了	2012/9/29	20	東京	柏の宮公園	草刈り、緑化作業
25	完了	2012/10/8	20	埼玉	鶴ヶ島市高倉地区	飯盛川水路沿いの草刈り
26	完了	2012/10/12	28	東京	カーリットの森	下草刈り、伐採した木の整理、里山作業全般
27	完了	2012/10/13	10	横浜	JFE エンジニアリング緑地	草刈り、落ち葉かき、小枝の剪定等林床整理。
28	完了	2012/10/14	9	横浜	恩田の谷戸	竹を10本程度伐採し、はざを作る。周辺の草刈り、状 況により川さらい。
29	完了	2012/10/19	8	横浜	カーリットの森	アズマネザサ刈り取り、シロダモ伐採。
30	完了	2012/10/20	4	東京	木場公園	ブース運営の手伝い、ハーブ石鹸WS補助
31	完了	2012/10/20	3	東京	夢の島	イベント運営補助
32	完了	2012/10/21	7	横浜	荒井沢	林床の枯れ枝、落ち葉等の片付け、整理。道路脇の 草刈りなど
33	完了	2012/10/21	7	東京	木場公園	ブース運営の手伝い、ハーブ石鹸WS補助
34	完了	2012/10/21	10	東京	サンシティ	集合住宅敷地内の森整備のお手伝い。
35	完了	2012/10/26	8	横浜	カーリットの森	アズマネザサ刈り取り、シロダモ伐採。
36	完了	2012/10/28	9	横浜	恩田の谷戸	周辺の草刈り、整備
37	完了	2012/10/28	5	鎌倉	鎌倉中央公園	脱穀作業や畑の草取り・草刈り作業。
38	完了	2012/11/1	3	東京	夢の島	チューリップ植え付け
39	完了	2012/11/11	11	横浜	川井緑地	林床整理、薪切り
40	完了	2012/11/15	29	東京	夢の島	ソバ刈り取り
41	中止	2012/11/17		横浜	桜ヶ丘緑地	初摺り、森の手入れ
42	完了	2012/11/18	10	横浜	恩田の谷戸	足踏み脱穀機を使用した脱穀作業、及び谷戸作業
43	完了	2012/11/22	9	東京	柏の宮公園	公園内の草刈り

年 NO.	状況	活動日	参加 人数	支部	フィールド	作業内容
44	完了	2012/11/23	8	埼玉	鶴ヶ島市高倉地区	竹林整備
45	完了	2012/11/24	12	東京	光が丘公園	セイタカワダチソウ除草
46	完了	2012/11/25	14	横浜	カーリットの森	下草刈り 間伐、倒木処理
47	完了	2012/11/26	8	東京	夢の島	中学生職場体験補助
48	完了	2012/11/29	9	東京	サンシティ	除草作業、土留め、土留め用柵設置作業
49	完了	2012/12/2	10	横浜	荒井沢	林床の枯れ枝、落ち葉等の片付け、整理。道路脇の草刈りなど
50	完了	2012/12/2	12	鎌倉	鎌倉中央公園	公園内の落ち葉掻き
51	完了	2012/12/6	9	東京	柏の宮公園	公園内の落ち葉掻き、整備
52	完了	2012/12/8	8	横浜	JFE エンジニアリング緑地	草刈り、落ち葉かき等林床整理と枝払い。
53	完了	2012/12/8	9	東京	夢の島	イベント運営補助
54	中止	2012/12/9		横浜	川井緑地	
55	完了	2012/12/13	9	東京	サンシティ	集合住宅敷地内の森整備のお手伝い。
56	中止	2012/12/15		横浜	桜ヶ丘緑地	
57	完了	2012/12/16	12	東京	柏の宮公園	草刈り、緑化作業
58	完了	2013/1/13	9	鎌倉	鎌倉中央公園	堆肥の切り返し、里山整備
59	完了	2013/1/17	7	東京	夢の島	降雪後の園内整備
60	完了	2013/1/19	17	横浜	桜ヶ丘緑地	モミすり、里山整備、トンボ池のかいぼりなど
61	完了	2013/1/27	4	横浜	川井緑地	林床整理、薪切り
62	完了	2013/1/27	3	東京	柏の宮公園	落ち葉かきなど
63	完了	2013/2/3	12	横浜	荒井沢	林床の枯れ枝、落ち葉等の片付け、整理。堆肥切り返し。
64	完了	2013/2/7	5	東京	柏の宮公園	公園内の落ち葉掻き、整備
65	完了	2013/2/9	11	横浜	JFE エンジニアリング緑地	林の手入れ、園路整理
66	完了	2013/2/10	9	横浜	川井緑地	林床整理、薪運び
67	完了	2013/2/23	14	横浜	カーリットの森	下草刈り 間伐、倒木処理

これまでの参加累計

年度	回数（回）	参加者（人）
平成 22（2010）年度	19	146
平成 23（2011）年度	44	489
平成 24（2012）年度	62	688
小計	125	1,323

累計平均参加者数：10.58人

経緯

2010年5月 トーキョーレンジャーズとして、隊員の応募を開始

5月30日 隊員3名+スタッフ2名で板橋区サンシティで活動を行う

以後、月1回ペースで活動を開始

6月 夢の島公園がフィールドに加わる

9月 神奈川 野島 塩生湿地の作業に参加

10月 西伊豆 松崎町棚田の保全活動へ参加 初遠征となる 8人参加

11月 NECソフトとの協働にて 海の森植樹活動(江東区)

杉並区 柏の宮公園がフィールドに加わる

12月末までで87名の隊員登録あり

2011年1月 隊員登録者数が急増したため、作業が追い付かず、登録受付を中断する

2月 受付をWEB上で行えるようなシステムとして、登録再開した

柏の宮公園での活動が、東京の緑を守るプロジェクト助成に採択される

3月 登録者数100名を突破

東京都下水道局森ヶ崎水再生センターにてリトルターンプロジェクトの活動に参加予定だったが、震災の影響で中止となる

震災の影響により、しばらく活動を休止

4月 トーキョーレンジャーズの広域モデル化のため地球環境基金の助成を受け、

「レンジャーズプロジェクト」となる

5月 活動再開この頃より週1回ペースで活動を行うようになる

7月 新木場駅前ハープガーデンがフィールドに加わる

8月 東京都の緑を守る将来会議で事例報告を行う

9月 隅田公園がフィールドに加わる

10月 受入団体の一般公募を行う

鎌倉中央公園がフィールドに加わる

12月 1年間の登録者数165名 トータル252名の隊員

2012年 3月 葛西臨海公園がフィールドに加わる

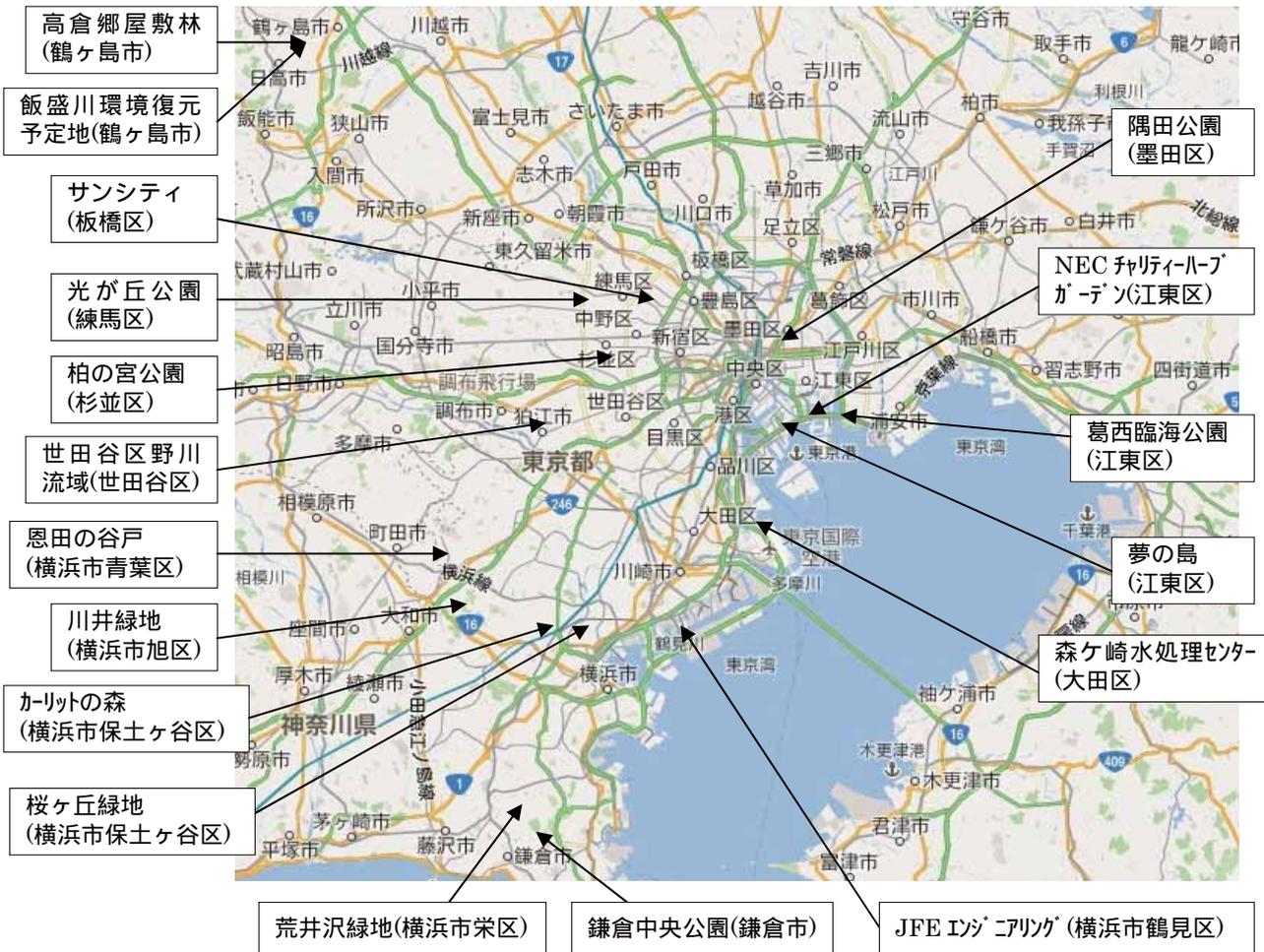
8月 会員管理にクラウド・システムを導入し、業務の効率化・信頼性の向上を図る

9月 ・レンジャーズプロジェクトのホームページをリニューアル

・よこはま里山レンジャーズを、NPO法人よこはま里山研究所(NORA)と協働で

6フィールドで開始

レンジャーズプロジェクト 実施 MAP



地域名	フィールド名	活動団体
東京	隅田公園	隅田公園さくらパートナーシップ
	NECチャリティー・ハーブ・ガーデン	NECソフト株式会社
	葛西臨海公園	認定NPO 法人生態工房
	夢の島公園	夢の島熱帯植物館
	森ヶ崎水処理センター	NPO 法人リトルターン・プロジェクト
	サンシティ	サンシティグリーンボランティアの会
	光が丘公園	認定NPO 法人生態工房
	柏の宮公園	柏の宮公園自然の会
	世田谷区野川流域	財団法人世田谷トラストまちづくり
埼玉	飯盛川環境復元予定地	高倉ふるさとづくりの会
	高倉郷屋敷林	里山サポートクラブ
横浜	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ
	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所
	カーリットの森	“カーリットの森”を守る市民の会
	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト
	荒井沢	荒井沢緑栄塾楽農とんぼの会
鎌倉	JFE エンジニアリング(株) 鶴見製作所	NPO 法人よこはま里山研究所
	鎌倉中央公園	NPO 法人山崎・谷戸の会

次ページ以降のフィールド紹介は誌面の都合上、抜粋とさせていただきます。

トーキョーレンジャーズ サンシティ内緑地

所在地：東京都板橋区中台

形態：分譲マンション内緑地

交通：都営三田線志村三丁目徒歩 10 分

<<活動団体>>

名称：サンシティグリーンボランティアの会（SGV）

代表：金本一夫

担当：金本一夫

設立：1997（平成9）年



【フィールド概要】

活動場所は、1977年から1980年にかけて分譲された、敷地面積12.4ha、約6,000人が暮らすマンション群にある4.5haの緑地です。この緑地の維持のため、1997年に住民によるボランティアグループとして会が設立されました。今では約124種・5万本の樹木が茂る立派な森となっています。活動は週1回、毎回20～30人、年間約1,300人が参加しています。落ち葉の堆肥化、枝材のチップ化などゴミとせず上手く利用して自然と共存する活動が、財団法人都市緑化基金主催の「都市づくり部門」で100選に選定されるなど、国内外から注目されています。



【レンジャーズを受け入れて】代表：金本一夫様



サンシティのボランティアは、緑に関しては、見聞きの経験をして来た人達ですが、緑の活動を経験しながら、自然と生活、周囲との関わりを学んできて、今のサンシティの緑を維持しています。今年も数十名の方々が、我々の活動に参加して、僅かな1時間30分の作業から、緑は自然と周囲の背景に繋がりにあることに気づかれたことではないかと思っています。

多くの方々に、身近な都会にあるサンシティの里山に来ていただき、緑と生活、周囲との関わりについて僅かでも体験していただければと思っています。

活動の特徴

レンジャーズプロジェクト誕生のきっかけとなったフィールドです。都営地下鉄の駅から住宅などの間を抜けるまで都市の景観ですが、一歩中庭に入ると大きな木々が青々と茂り、山深い里山に来たかと思間違ふようです。一般的にマンション内の緑地は管理組合が業者に委託する事が多いようですが、こちらでは大半の作業をボランティアの皆さんが実施されています。ボランティアだからこそ守られる自然があることを学ぶとともに、この緑を次世代に繋ぐためレンジャーズも参加しています。

トーキョーレンジャーズ 杉並区立柏の宮公園

所在地：杉並区浜田山

形態：協定に基づき行政とボランティア団体が協働管理

交通：京王井の頭線 浜田山駅より徒歩7分

<<受入団体>>

名称：柏の宮公園自然の会

代表：梶山信夫

担当：田中豊子

設立：2002（平成14）年



【フィールド概要】



杉並区立柏の宮公園は2004年（平成16年）に開園。その公園づくりにあたっては、公園計画を考える「集う会」や専門委員会が開催され、延べ380人を超える区民が話し合いを重ね、公園憲章や基本計画の策定などが行われました。そして、その過程で予定地に残されていた自然に触れ、それらを極力保全してさらに豊かに育てていこうと集った仲間で、2002年（平成14年）に柏の宮公園自然の会が設立。行政や他団体と話し合いを重ねながら、公園全域にわたる植生、水辺などの生態系保全管理作業を行い、冬期

湛水不耕起稲作や自然観察会なども企画運営しています。（詳細は「柏の宮公園自然の会」でWEB検索を！）公園には、深さや明るさなどが異なる3つの池や、広い草地、田んぼ、アカマツやイヌシデなどの樹林地など変化にとんだ自然環境があり、住宅地の中のオアシスのような存在となっています。

【レンジャーズを受け入れて】柏の宮公園自然の会事務局、植生管理担当世話人 田中豊子様



東京都区内にもまだこのような自然が残されていることにびっくりされる方が多いですね。住宅地のど真ん中に残されたこのような場所こそなくてはならないと強く感じます。また、単に観察だけするよりも、生態系を維持する為の作業を行いながらの方が、様々な生き物達と遭遇する機会も多く、より深く自然に親しめますので、こういう自然の楽しみ方を多くの方にわかっていただければ嬉しいです。身近な自然環境を身近な大人達が率先して守り育てる姿勢こそが、子ども達にとっても一番の環境教育であるとも感じておりますし、より多くの方々が楽

しみながら気軽に体験を重ねて、このような活動の輪がますます広がっていく事を願っております。

活動の特徴

通常のレンジャーズのほか、東京テクニカルカレッジの生徒を受け入れていただいています。参加した隊員はみな、会員の方の熱心さに心を打たれているようです。ここでの活動がきっかけとなり、自らも植物や動物に関心を持つようになった参加者も多くいます。施設面、交通の便も良いことから初心者にも最適なフィールドとして、お勧めしています。今後は、地域の人にどう参加してもらうか、レンジャーズの隊員がどうしたら定着してもらえるかが課題です。

トーキョーレンジャーズ 墨田区立隅田公園

所在地：東京都墨田区向島

形態：墨田区管轄の公園を協働で維持管理

交通：都営浅草線本所吾妻橋駅徒歩5分

<<活動団体>>

名称：隅田公園さくらパートナーシップ

代表：増村多喜雄

担当：石野秀紀（事務局）

設立：2006（平成18）年3月25日



【フィールド概要】



隅田公園は、隅田川の左岸に位置し、対岸は浅草、背中にスカイツリーと、古くから発展する町と、最新の町が共存する場所に位置しています。江戸時代から続く墨堤の桜を次世代に継承するため、「隅田公園を通じて地域コミュニティをさらに活性化していく」ことをコンセプトの1つとして掲げ、より多くの人の憩いの場として楽しめる隅田公園となるよう、平成18年より区とのパートナーシップにより活動しています。主に 桜の保全活動（調査・根元への植花など）間伐材の利用活動 広報PR 活動を実施しています。

【レンジャーズを受け入れて】事務局：石野秀紀様

「トーキョーレンジャーズ」さんに私たちの活動のお手伝いに来て頂くのも、2年目になります。今年度は、3月さくらの花芽調査、5月・8月の灌水・除草作業に来て下さいました。隅田川花火大会で進入された花壇の灌水作業等をしていただいたおかげで、コスモスも復活して咲きました！ありがとうございました！

花芽調査などは、さくらの見方が学べたり、さくらや緑への興味のきっかけになってくれると思います。若い皆さんが、そういった知識や経験を早い段階で参加し学べることは、良いことだと思います。私たちも人手不足や高齢化などの課題もあり、また皆さんのお力を借りられればと思っております。これからもよろしくお願ひします。



活動の特徴

隅田川といえば春の桜、夏の花火大会が有名ですが、ここ隅田公園はそのどちらを見るのにも絶好のポジションです。それだけに、毎年花見や花火大会の日には大変な数の人が隅田公園にも訪れます。しかし、残念ながら折角きれいにした花壇も見物の方に踏まれてしまう事も数多くあり、都市部での自然のありかた、管理の難しさを学ばせていただいています。さくらや花壇整備の活動が多いので、花好きの隊員にも人気のフィールドです。

トーキョーレンジャーズ 夢の島公園・夢の島熱帯植物館

所在地：東京都江東区夢の島

形態：指定管理施設

交通：地下鉄有楽町線・JR 京葉線・りんかい線
「新木場」下車 徒歩 15 分

<<活動団体>>

名称：夢の島熱帯植物館

代表：榎本 浩

担当：平賀耕介

設立：1988（昭和 63）年



【フィールド概要】

都立夢の島公園は 1978 年に、運河と水路に囲まれた面積 43 ヘクタールの総合公園として開園しました。もともと夢の島とはゴミの最終処分場でしたが、今となっては都心に近い緑豊かな公園となっています。隣接する新江東清掃工場から送られてくる高温水を利用した「夢の島熱帯植物館」があり、東京都の亜熱帯、小笠原にしかない貴重な動植物が数多くいます。屋外の花壇などでは、季節によってさまざまな表情を見せる植物が数多くあります。このほか敷地内には、Bumb、第五福竜丸展示館などの施設があり、土日は多くのお客様で賑わっています。



【レンジャーズを受け入れて】事務・イベント担当：平賀様



今年も公園、植物館で行われたたくさんの行事にご協力いただきました。レンジャーズの方々は謙虚さや学びに対する意欲を持っている方が多く、一緒に作業をするのがとても楽しかったです。ソバ刈り取りボランティアでは労力のいる作業にもかかわらず、ソバの実の付き方を観察するなど興味を持って活動していただき、公園の魅力伝える側としても大変充実した行事となりました。その他、幼稚園児とのチューリップ球根植付や小学生向けイベント「森の学校」では、子どもたちが楽しそうにレンジャーズの方と接しており、環境教育の場でも活躍していただきました。ぜひともまたご協力いただきたいと思います。

活動の特徴

職場体験プログラムの一環として、学生限定のレンジャーズとして実施。植物館のバックヤードなど通常ではあまり見ることができない場所にも入ることができ好評です。植物館への就職希望の学生も多く参加していますが、植物館の仕事がイベントや安全管理が多いことを知り、理想と現実の違いを知る機会にもなっています。今年は初の試みとして、一般参加者を募り「東京で蕎麦づくり」と題した活動も実施し、ソバの刈り取り作業をお手伝いしました。今後もレンジャーズでは、「公園はみんなで楽しむ」をモットーとし、都民協働を目指します。

トーキョーレンジャーズ 世田ヶ谷トラストまちづくり せたがや野川の会

所在地：東京都世田谷区成城

形態：公有地

交通：小田急線喜多見駅から徒歩7分

<<活動団体>>

せたがや野川の会

代表：井上純三

担当：立川周二

設立：2002（平成14）年



【フィールドの特徴】



野川は国分寺市より発し、国分寺崖線から湧出する豊富な水を集め、多摩川に合流するまで、約20kmを流れる一級河川です。国分寺市、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市などの都市部を流れ、世田谷区二子玉川で多摩川に流れ込みます。以前は武蔵野の田園を流れていましたが、現在は住宅に囲まれる都市河川となっています。しかし、河川の堤防や高水域は草地となり、近隣住民が散歩して、格好な憩いの場所であるとともに、貴重な自然を残しています。

堤防内の草地は、年に2回の地域行政による除草が実施されています。除草機による徹底した除草で、在来種が衰退して、外来種が繁茂する状況です。在来種に配慮した除草はなされず、画一的に一斉に除草されています。この方法では、草地に生息する昆虫などにも影響し、生物多様性は単純な生物相の方向に向かっています。レンジャーズの参加者には、主要な外来種である、オオブタクサ、セイダカアワダチソウ、アレチウリなどの駆除をお願いしています。

【レンジャーズを受け入れて】担当：立川周二（認定NPO法人自然環境復元協会理事）



外来種に対しては、除草機は使わずに、できる限り根ごと抜き取るようにしています。植物が小さい内に駆除するよう努めていますが、育ってしまった草は、根を張り容易には抜けません。外来種を選んで駆除するには、人手に頼る以外になく、現在の会員の人数と高齢化では、草の勢いにお手上げです。レンジャーズで10名前後の方が来て戴けると、年に3~4回くらいで、駆除範囲内の外来種は退治できます。まだ都内に残る貴重な自然の中で、緑に囲まれ汗をかくことは、爽快であるとともに、達成感を味わえます。

活動の特徴

川沿いに歩きながら外来植物を抜いていくという、保全活動というよりピクニック気分での活動でした。参加者は、外来種の種類の多さ、量に驚いていました。作業中には、散歩途中の地域の人から声をかけていただき、「これが外来種なんだね」と関心を持ってくれたりと、若者が大勢で楽しそうにやることが、気軽に声をかけやすく啓発につながるのを実感しています。

かまくらレンジャーズ 鎌倉市立鎌倉中央公園

所在地：鎌倉市山崎

形態：鎌倉市と協働で実施

交通：JR 大船駅よりバス 15 分

<<活動団体>>

名称：特定非営利活動団体 山崎・谷戸の会

代表：相川明子

担当：黒川美加

設立：2004（平成 16）年

（前身の鎌倉中央公園を育てる市民の会）



【フィールド概要】



鎌倉中央公園は、かつて多く見られた景観が残された 23.7 ヘクタールの風致公園です。この内には谷戸と呼ばれる小高い山や丘陵に囲まれ、谷が細長く続くような地形があり、これを活かした保全活動を 7 つの班（田んぼ班、畑班、雑木林管理班、生態系保全班、植物育成班、農芸班、自然遊び班）に分かれて行っています。単なる農村体験にとどまらず、昔ながらの作業を通じ文化や景観を受け継いでいくことによって、貴重な生き物が暮らせる豊かな生態系を維持していくことも目標です。日曜日の午前中を中心に、赤ちゃ

ん連れ家族から高齢者までいろいろな人が集まって活動しています。初心者向き講座「谷戸塾」（保育付き）も好評です。

【レンジャーズを受け入れて】

畑班 田中敏恵様

皆さんが来てくださると平均年齢がグッと若返り、元気とパワーをもらっています。先日は、どんどこ焼きの団子作りを手伝ってもらい、300 個のお団子が見事にできあがりしました。昔ながらの貴重な作業を、興味を持って熱心に取り組んでくださいました。作業に参加する子ども達とも仲良くなって楽しく活動してもらいました。今後も様々な活動に参加していただき、ご一緒できると嬉しいです。

田んぼ班 淡中京子様

苗床開墾・田の草取り・田うない等の、大変な作業に若い方々がたくさん参加して下さり、こちらでも元気になりました。回を重ねるごとに、引率者やリピーターさんと親しくなれ、活動がしやすくなりました。「都会で仕事をしているので、ここに来て体を動かすとリフレッシュできるんです」と、遠くから来てくださるので感謝です。

活動の特徴

自然を守るだけでなく、地域の文化も守りながら、古くからある里山に関わることを全般的に実施されています。雑木林の作業から農作業まで、バラエティに富んだ活動をされています。レンジャーズの隊員は農業に興味を持つ人も多く、畑仕事は遠くからのリピーターもいる人気の現場です。

埼玉レンジャーズ 高倉郷屋敷林

所在地：埼玉県鶴ヶ島市高倉

形態：農業家所有 防風・薪炭林

交通：東武生越線 一本松駅 徒歩15分

<<活動団体>>

名称：里山サポートクラブ

代表：小澤 邦彦

担当：吉井 優

設立：2003(平成15)年、2005(平成17)年にNPO認証



【フィールド概要】



作業地となった高倉地区屋敷林では、一昔前には竹細工や農業用資材として竹が栽培されていました。今では竹が密集し枯れ竹が倒れ、人が入れる状態ではなく、荒廃が進んでいました。そこに、震災復興に竹が必要とされている事を知った、地元の農業交流センタースタッフが、竹林の持ち主に声をかけ、里山サポートクラブや復興支援を応援する市民が竹林整備に取り掛かり、傘を差して歩けるような美竹林に変える作業を始めました。

この整備作業で伐採した竹が、被災地の産業復興につながることで、近隣住民・被災地住民の両方から喜ばれています。

【レンジャーズを受け入れて】事務局長：吉井優様



つるがしま里山サポートクラブは、牡蠣養殖業支援のため、筏用の孟宗竹を気仙沼に送っています。昨年度は、震災直後ということで、市民の応援が得られましたが、今年度は、単独作業となり、苦戦していました。高倉地区では、レンジャーズの皆さんに来ていただいて竹林整備ができました。始めはノコギリを持つ手もおぼつかず指示待ちの方も、2時間後には周囲の様子を判断し、自主的に動けるようになっていました。作業を覚えたころに1日の作業終了というのは残念な気がしました。第2回目は、レンジャーズの有志と地域の若者グループが、残り作業に参加してくれました。レンジャーズの参加がきっかけとなり、その後地元の若者が復興支援竹林伐採に参加してくれることになりました。

活動の特徴

「屋敷林」という言葉をはじめて聞く参加者も多く、かつては自然と共生していたことを実感ながらの作業となりました。また、伐り出した竹を被災地に送り復興支援につながると同時に生物多様性の実現につながるという一石二鳥のプログラムは、被災地とのつながり、地域とのつながり、自然とのつながりという、レンジャーズが多くを繋ぐ可能性があることを、あらためて考えるきっかけとなりました。

埼玉レンジャーズ 飯盛川 環境復元予定地

所在地：埼玉県鶴ヶ島市高倉
 形態：高倉地域農家 共同作付農場内
 交通：東武東上線 一本松駅 徒歩15分
 関越鶴ヶ島 IC・県央鶴ヶ島

<<活動団体>>

名称：高倉ふるさとづくりの会
 代表：関口 丈夫（会長代行）
 担当：関口 文雄
 設立：2001（平成13）年



【フィールド概要】



埼玉県鶴ヶ島市高倉地区は関越・圏央の各 IC から5分ほどのところにあります。かつては湿地と泥田だった所を、昭和50年代に土地改良事業を行い10haの畑地とし、飼料用のデントコーンなどを栽培していますが、ミソハギやノカンゾウなどの在来植物を見ることができます。3面護岸の直線水路となった飯盛川ですが、アヤメやヒガンバナを植栽するなど景観形成を意識した活動も実施しています。レンジャーズには主に、この飯盛川付近の除草をお願いしています。特

にイチビやアレチウリ、オオブタクサなどの外来植物の侵入も多くなりつつあるので、それらの駆除に重点をおいています。

【レンジャーズを受け入れて】関口 文雄様



普段は15名前後で活動しているが、若い人が少ないためレンジャーズが参加してくれると心強い。アヤメの周りの外来植物などをきめ細かく除草したり、水路の護岸のアレチウリを駆除する際にも、20名もの方に来て頂き本当に助かった。近年、ふるさと高倉の環境を見直す動きが強くなっている。現在、自然環境復元協会の力を借りながら3面コンクリート張りの直線水路を、生態系に配慮した自然河川に再生する計画が進んでいる。大まかな改修工事は早くすすむが、問題はそれあとの在来植生を中心とした生態系の復元だ。細やかな手作業での管理を長く続けていかなければならない。レンジャーズの参加に心から期待している。

活動の特徴

今後改修工事が入り、親水公園になる予定の場所の整備の一環として参加。毎回、この現場がどのように変化していくかを楽しみながら、作業をしています。レンジャーズが参加を楽しみにしてくれているとのこと、今後は、地元の鶴ヶ島や東武東上線沿線の若者の参加を促すことが、レンジャーズの課題です。埼玉レンジャーズの拡大も期待されています。

よこはま里山レンジャーズ 恩田の谷戸

所在地：横浜市青葉区

形態：農家の許可を得て民有地で活動している

交通：こどもの国線恩田駅から徒歩 10 分

<<活動団体>>

名称：恩田の谷戸ファンクラブ

代表：藤田廣子・高橋多枝子

担当：藤田廣子

設立：1991（平成 3）年



【フィールド概要】



恩田の谷戸は、東京から約 1 時間の住宅地の真ん中に島のように残された、雑木林、田んぼ、小川が揃った貴重な里山です。多様な生き物の棲む谷戸の自然と文化を次代の子どもたちに引き継ぎたいと、田んぼや畑作業、森の下草刈りや炭焼き、小川の整備などを行い、昼には自分たちで作った黒米のご飯と谷戸の農家の野菜で昼食を作ってみんなで食べます。レンジャーズのみなさんには竹の伐りだしや草刈り、ちょっと昔の足踏み脱穀機での脱穀体験もして

いただきました。作業には会で野菜券を発行、谷戸の農家の直売所で使うことができます。

【レンジャーズを受け入れて】世話人：藤田廣子様

若い人たち 10 名に来ていただき、会が活気づいて楽しくなりました。雨で作業ができなくなった時は、皆さん、仕事がしたかった、と残念がっていて頼もしく思いました。反面、お互いに初めての試みだったため、レンジャーズの皆さんは、緊張して精一杯働かなくてはならないと思っていたようで、当会はみんなマイペースで、ボランティアは自分のやりたい事をすればいいんだよ、という考えでしたが、もっと休憩や担当替え等を細かく気を配ってあげた方がよい、と反省しました。おかげでたいへん作業がはかどり、新入会もありとても助かりました、感謝申し上げます。

里山は森林だけではなく、重要な水辺の作業にもお手伝いいただけるとありがたいですし、春先の作業にも適用されるといいと思いました。

活動の特徴

こちらのフィールドの大きな特徴は、谷戸田があり、お米づくりを軸とした里山の保全活動が行われている点です。脱穀などの作業では、近所の農家の方より、唐箕（とうみ）と呼ばれる収穫した稲を脱穀した後、籾殻や藁屑を風によって選別する農具を借りて作業するなど、景観だけでなく文化も含めて受けついでいこうと活動されています。レンジャーズ隊員も、そうした部分を体験できることも、大きな魅力に繋がっていると言えます。

よこはま里山レンジャーズ カーリットの森

所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向町
 形態：企業の保存協定林
 交通：相鉄線和田町よりバス 17 分

<<活動団体>>

名称：“カーリットの森”を守る市民の会
 代表：中村雅雄
 担当：伊藤博隆
 設立：1997（平成9）年



【フィールドの特徴】



横浜近郊に残る貴重な緑地。元は日本カーリット社という火薬工場の実験施設が戦前からあり、施設内及び周辺は緩衝地帯として森林が残されていた。既に工場は移転し、跡地は老人ホームと横浜市の公園となり、周囲の緑地の多くはまだ残されている。森の林床の大部分はアズマネザサ（篠竹）が数多く繁茂しており、レンジャーズの参加者には主にこの篠刈りをしてもらう。最初に森の価値、作業の意味をレクチャーし、森がさっぱりしていく爽快感を味わってもらっている。所々シロダモなどの5m前後の常緑樹を切り倒し

ており、この作業は男性に好評。これまで少人数で活動してきたため、整備があまり出来ずにいたが、レンジャーズで大勢の参加により、整備が一気に進んだ。

【レンジャーズを受け入れて】代表：中村雅雄様



通常は5名前後で活動しているが、レンジャーズで10名前後の方が参加すると、総勢15名ほどの活動になります。人数が多いと作業の進み具合が極めて早く、自分たちだけでは出来ないような活動が可能。これまでも会の活動に参加する若い人はいたが、なかなか定着しなかった。レンジャーズでは近隣の人も来ているようなので、今後直接、会の活動に参加してくれる人が増えることを期待しています。

今回、一般のレンジャーズとは別に、資生堂の方にも3回に分け参加していただき、沢山来て頂いたので、作業が一気に進みました。企業の方が来ることはこれまでなかったので、良い機会を頂いたと思っています。

活動の特徴

横浜駅から比較的近い距離にありながらも、豊かな森が広がっているフィールドです。これまでは森の大きさに対し少人数で活動していて、先が見えない状況だったとのこと。レンジャーズで一気に整備が進み、これからの新たな活動メニューを考えられる、とのこと。今後の展開が楽しみなフィールドの一つです。

よこはま里山レンジャーズ 荒井沢緑地

所在地：横浜市栄区公田町

形態：地主さんの「農地管理のお手伝い」

交通：JR 根岸線本郷台より車で5分

<<活動団体>>

名称：荒井沢緑栄塾楽農とんぼの会

代表：大中捷行

担当：赤羽義郎

設立：1996（平成8）年



【フィールド概要】



鎌倉市との市境に位置する、里山景観が保全された樹林地と農地です。恩田の谷戸と同様、営農活動によって横浜の原風景が保全されている地域です。

原則として毎週日曜日に活動し、伝統農法を学びながら、荒井沢地区で従来から栽培されていた作物（小麦、大麦、大豆、黒豆、サツマイモ、ジャガイモ、ソバなど）を主要作物として栽培。地域への関わりとして、麦刈り会、サツマイモ掘り会の開催、そば・うどん打ち、味噌・豆腐づくり

りなど、会員の技能向上と同時に地域との交流を幅広く実施しています。「里山景観の保全」のため、畑地を細切れにしないで、全体を共同で管理するいわゆる「市民農園」とは異なる方式で運営。

【レンジャーズを受け入れて】代表：大中捷行様



緑栄塾のミッションは、里山を守る、農を楽しむ、地域と交わる の3つです。地域と交わり、里山を守る活動としてレンジャーズの皆様を受け入れました。メンバーの皆様は、里山の落葉畑の整備、落葉掻きと堆肥づくりを経験してもらいました。これらはいずれも重労働で、若い女性の皆様には、大変な作業であったと思います。

自然の中での落葉の循環を体験してもらうことで、落葉堆肥がいかに農を進めていく上で大切かを理解していただけたと思います。落葉堆肥の中の温度が50度を超えたのを見た時の驚きの顔が印象的でした。緑栄塾も会員の高齢化が進んでいますので、里山レンジャーズのような若い方が、畑に参加いただいてさらに里山の農体験を深めていただければと思います。

活動の特徴

駅からタクシーで5分ほどの場所で、アクセス的にはやや不便な場所にありますが、山を登ると突如として畑が広がり、ここが横浜市内であることを忘れるような場所です。荒井沢緑栄塾の皆さんは、落ち葉を集め堆肥を作ったり、マルチに萱を使ったりと、できるだけ自然に近い方法による畑づくりを実践されていて、学びの多いフィールドです。

よこはま里山レンジャーズ 桜ヶ丘緑地

所在地：横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘
 形態：神奈川県トラスト緑地
 交通：相鉄線天王町駅 徒歩 10分

<<活動団体>>

名称：桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト
 代表：荒川正登
 担当：荒川朱美
 設立：2006（平成18）年



【フィールド概要】



桜ヶ丘緑地は保土ヶ谷区の市街地の中に残る、神奈川県が所有する斜面樹林地を主体としたトラスト緑地です。元は瓶の工場があった場所で、当時の遺構も所々にあります。15年間放置されていたテニスコート跡地に、森や田んぼを自分たちの手で作り、豊かな自然を再生しようというプロジェクトです。市民によって湧水を活用した水田が作られるなど、里山景観が復元しつつあり、田んぼは地元の小学校の、環境学習のフィールドとして役立っています。

横浜駅にほど近い活動場所はレンジャーズ参加者にも好評で、参加者には下草刈りやアオキ、シュロなどの常緑樹の小径木の伐採などを行ってもらっています。

【レンジャーズを受け入れて】副代表 中林博志様

このところメンバーの高齢化と多忙化で、実活動者の減少に悩んでいた当プロジェクトですが、暑さ・寒さをものともしないレンジャーズの活躍ぶりに感謝しています。特に毎回10人から20人近い方々の活躍により、樹林の下層を覆っているアオキやヤツデ、シュロなどがすっきり除去された箇所が際立っています。表土が現れたことで、ニリンソウなどの春植物が元気を取り戻してくれるのを期待しています。

また、若いレンジャーズとともに活動して、従来からのメンバーも元気をいただいています。今後、リピーターの参加があれば本当にうれしい限りです。

活動の特徴

このフィールドは横浜駅から電車で3駅、そこから歩いて10分というアクセスの良さが魅力です。フィールドまでの道のりは、ビルの間を歩いていき、初めて訪れる人は「ここにフィールドがあるの?」と思われる。企業の研修所の裏山に森があり、田んぼがあり、意外なほど緑が多いのが特徴です。都市と自然が共存する、横浜らしいフィールドと言えます。

よこはま里山レンジャーズ 川井緑地

所在地：横浜市旭区下川井町

形態：民有地

交通：相鉄線三ツ境駅からバス、
川井橋又は旭高校入口バス停

<<活動団体>>

名称：NPO 法人よこはま里山研究所

代表：松村正治

担当：下山

設立：2000（平成 12）年



【フィールド概要】

川井緑地は旭区にある約 5ha の保全緑地です。長いあいだ手入れがされず荒れた状態になっていましたが、森林に手を入れて「豊かな森づくり」に取り組むとともに、間伐材などの「森の恵み」を利用しながら森とかわる暮らしを探って来た結果、少しずつ心地よい森になってきました。周辺にはかつて多くの不法投棄廃棄物がありました。森が手入れされたり、地元の高校と協力して施設改修などを行ったことにより、不法投棄も随分減りました。

会の活動では、本格的に雑木の伐採や製材なども行っていますが、レンジャーズの参加者には、初心者でもできる萌芽や下草刈り、伐採した材の整理・皮むき、搬出などを手伝ってもらっています。よこはま里山レンジャーズのフィールドで最も本格的な山仕事に触れることのできるフィールドです。



【レンジャーズを受け入れて】ヤマ仕事担当理事：中林博志様

川井緑地では、毎回チェーンソーを使った樹木の間伐などをメインに活動しているので、普段はなかなか手に入れない常緑樹の萌芽掻きなどをレンジャーズの方々に実践していただき、林床がすっきりしました。春の芽吹きが楽しみです。また玉切った丸太の皮むきなど珍しい体験もしていただきました。成果がはっきりわかる活動で充足感も味わえたと思います。

またのご参加をお待ちしています。針葉樹林のフィトンチッドを吸い、一緒にたき火を囲んで森を語り合いましょう。

活動の特徴

このフィールドは一般的な里山と異なり、奥山のような杉などの針葉樹が立ち並ぶユニークな場所です。このフィールドで活動されている NPO 法人よこはま里山研究所の皆さんは、チェーンソーや製材機など様々な道具を駆使し、林業の現場のような感じで作業を進めています。レンジャーズ隊員は動力機械は扱いませんが、募集の際は「がっつり度」と最高ランクです。

よこはま里山レンジャーズ JFE エンジニアリング(株)鶴見製作所

所在地：横浜市鶴見区末広町 2 - 1

形態：民有地

交通：JR 鶴見線 弁天橋駅

<<活動団体>>

名称：JFE エンジニアリング(株)鶴見製作所

代表：常務執行役員・鶴見製作所長 野島豊一郎様

担当：環境保全室 柴田芳宏様

創立：1916 (大正 5) 年 4 月



【フィールド概要】



鶴見製作所の歴史は古く、“京浜工業地帯の生みの親”といわれる「浅野総一郎」が 1916 年 4 月に創立した(株)横浜造船所(後に、(株)浅野造船所に改称)にさかのぼります。それ以降、製鉄所の創設・移転、重工部門への進出、造船部門の分社といった変遷を遂げてきました。

そして現在の鶴見製作所は、エンジニアリング事業の営業、計画・設計、製造、建設そして研究開発を担う基幹事業所として、グループ会社を含めて約 5,000 人が働

いています。事業所敷地面積は約 4 2 万 m² のなかに、シイ、カシ、クスなど合計約 3.9 万 m² のボリュームのある緑地が点在しています。

【レンジャーズを受け入れて】環境保全室：柴田芳宏様



レンジャーズの皆さんによる緑地の保全活動を 3 回 (10 月、12 月、2 月) 実施して頂きました。参加された皆さんも、いつもの里山ではなく工場が立ち並ぶ京浜臨海部の企業緑地での活動とあって、勝手が違ったのではないのでしょうか。受け入れ側の私共も初めての体験でしたので、活動場所の選定、当日のオリエンテーションなどすべてが試行錯誤でした。

保全活動の内容ですが、緑地内に山積みされている剪定枝のバラシ作業、落葉樹(桜)と競合していた常緑樹(楠)の除伐作業、林床を人の立ち入りから保護するための粗朶柵づくり、落葉を堆肥にする落葉プールづくり、地被類(中低木・草類)の補植などを行なって頂きました。その成果として、ほとんど手入れされずに眠っていた緑地が、保全活動後は生きいきと輝いて見えてきました。レンジャーズの皆さん、有難うございました。継続的な保全活動の必要性を感じていますので、これからもぜひご支援をお願いします。

活動の特徴

こちらの活動の特長は、JFE エンジニアリング(株)という鉄鋼・造船などを行う企業の敷地内での活動となることから、工業地帯の真ん中での作業になるという事です。人工的に作られた緑地ですが、時間を経ることで動物たちの貴重な住処になりつつあり、こうして手入れをすることが、より良い森づくりに繋がります。

4. 様々な主体との協働事例

レンジャーズプロジェクトでは、地域の自然保護活動団体への隊員派遣のほか、企業が取り組む活動とも協働して実施しています。

チャリティハーブガーデンプロジェクトを通じた交流

NECソフト株式会社 経営企画本部 CSR推進部 星野光一様

チャリティハーブガーデンプロジェクトは、NECソフトの地域貢献活動として2006年に発足。東京都港湾局に新木場駅前の緑地帯を借用し、ハーブガーデンを造園・管理し景観美化に努めています。緑化NPO法人 GreenWorks にガーデニングの支援を受け、新木場の景観美化に留まらず、社員や地域の方々によるハーブガーデンのハーブを利用した加工品作り、その加工品の地域イベントでの販売を行なっています。売上金は自然環境復元協会等のNPO法人に寄付し、環境保全や東日本大震災支援に活用いただいています。また、2012年より、新木場のハーブを活用した東日本大震災での被災地支援として、宮城県気仙沼市の大谷仮設や宮城県本吉郡南三陸町の波伝谷仮設にハーブの挿し木の提供もはじめました。仮設住宅でのボランティア団体「あんでねっと@大谷」とも連携し、この団体が作る加工品に新木場のハーブを活用していただいています。この活動によって人と人がつながり、被災地ともつながる…。IT企業だからこそその「コミュニケーション」への想いとこだわりをこのプロジェクトを通じて、一つひとつ実らせていきたいと考えています。

【取り組み内容】

6月24日 ラベンダーまつり 40名参加

新木場駅前のハーブガーデンにおけるラベンダー収穫作業では、2011年7月からレンジャーズのボランティア派遣をいただいています。今年は「ラベンダーまつり」と称した合同収穫祭を開催しました。レンジャーズの方々にもお手伝いいただき、社員や地域の方々との交流も楽しんでいただきました。ガーデン一面に咲くラベンダーはとても社員ボランティアでは収穫しきれないため、レンジャーズを派遣いただくことに大変感謝しています。今回収穫いただいたラベンダーは、社員が作成するハーブ加工品の材料として活用させていただきました。



10月20日・21日 江東区民まつり 11名参加

2008年より「江東区民まつり・中央まつり」にブース出店し、ハーブ加工品の販売や新木場のハーブで抽出したエキスを使った「ハーブ石鹸づくり」を実施し、毎年2日間で約1,000名以上の方にお越しいただいています。レンジャーズには2011年より、ハーブ石鹸づくりの指導のお手伝いいただいています。レンジャーズ内の団結はもちろん、一人ひとりが主体性をもって行動し、課題解決に取り組む様子は仕事に通じるものがあり、社員ボランティアにとっても良い刺激となりました。ベテランから初参加の学生まで参加があり、この主体性の高さや幅広い層の厚さは、「さすがレンジャーズ」と感じずにはられません。



【レンジャーズの受入について】

地域の景観美化向上を目的に造園したハーブガーデンが、企業・行政・住民・NPOの新たなコミュニケーションの機会を作り出しました。特にレンジャーズとの出会いにより、この活動を広く多くの人の方に知っていただき、都市環境をよりよくしようとする次世代の育成の契機となれたらと期待しています。企業の社会貢献活動は、どうしても内向きの活動になりがちです。レンジャーズとの連携が、こうした活動を外向きにし、さらにビジネスでは繋がることのない「つながり」を作り、社会に向けた新たな価値を生み出すと信じています。

企業からみたレンジャーズプロジェクトの特長と今後への期待

株式会社資生堂 技術アライアンス推進部

2012年、創業140周年の節目を迎えた弊社では、これまで支えていただいたお客さまや社会に対して感謝の気持ちを表す活動「未来椿プロジェクト」を始めました。このプロジェクトは、どのようなカタチで感謝の気持ちを表現するのか社員一人ひとりが考え、実際に行動することを特色としており、私共も部員全員で取り組みました。今回のレンジャーズプロジェクトとの協働は、環境保全活動にさまざまな立場で携わっている多くのNPO関係者の方々の声から、ある想いに至ったのがきっかけでした。その想いとは、企業都合ではなく、実際に活動を必要としている時期や場所、その現地が抱えている問題、現地の方々に本当に喜んでいただけることは何か、これらを正しく理解し、お応えするという基本を大切にしたいというものでした。こうしたなかで出会ったレンジャーズプロジェクトには、

- ・活動が必要とされている時期や場所、現地の問題やニーズが明確
- ・活動日、活動場所が多く、企業としては柔軟に計画が立てられる
- ・受入団体と企業との距離感が適度に保て、良好な関係を維持できる
- ・活動に関係している方々やレンジャーズ隊員の方々と広く交流の機会が持てる

といった特長があり、企業にとっては基本が守れ、かつ無理なく環境保全のお手伝いができる要素が揃っていました。レンジャーズ隊員への全員登録が決まりました。

【取り組み内容】

実施日：2012年10月12日(金) 14:30～17:00

実施場所：カーリットの森（横浜市保土ケ谷区）

受入団体：“カーリットの森”を守る市民の会

参加人数：約30名

作業内容：アズマネザサなどの下草刈り
シロダモなど常緑樹の間伐



【協働を振り返って】

カーリットの森での協働は、受入団体様の丁寧な説明に助けられ、身近な環境への意識啓発や環境保全活動に対する理解など、多くの収穫が得られた体験となりました。また、作業についてアンケートしたところ、「思っていたより楽しかった」「仕事とは違った達成感を味わえた」といった継続意欲を期待させる声に加え、職場の一体感醸成やメンバーの親睦、相互理解に役立つという回答が多数ありました。これは、環境保全活動へのCSRを手掛かりとした企業誘因とは異なる、新しい切り口、新しい動機づけでの誘引の可能性を示唆しているように思います。今回の協働が受入団体様やレンジャーズプロジェクトにとって少しでもお役に立てていましたら何よりですが、それにもまして環境保全活動に携わっている方々と企業との相互理解が進み、企業の参画が広い機会が促され、社員としての参加が一市民としての参加につながり、発展、継続していくことを願っています。

事務局より

株式会社資生堂技術アライアンス推進部の皆さんは、非常に熱心に現場作業に取り組んで頂き、受入団体の方も「森が一気に明るくなった」と好評でした。一般のレンジャーズと異なり、部署単位での参加ですので、初めての森林作業でも、すぐにチームワークで役割分担がなされていく様子は、企業の方ならではの特長で、こうした取り組みを広げていきたいと考えています。

アンケート結果（企業編）

5. 企業の方へのレンジャーズプロジェクト参加のアンケート結果

前ページでレンジャーズプロジェクトに企業毎でご参加頂いた、株式会社資生堂 技術アライアンス推進部の皆さんに、アンケートにご協力頂きました。アンケートの分析は、レンジャーズプロジェクトを研究対象とするインターンの高瀬さんにご協力いただきました。

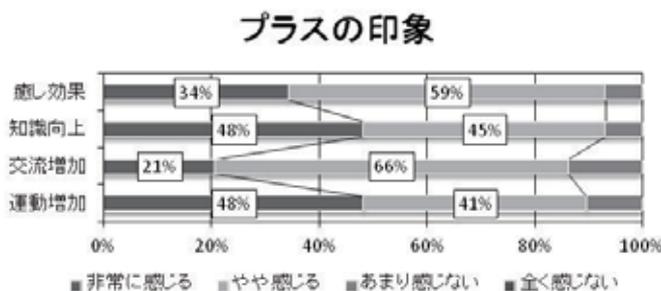
緑のボランティアに関する調査 資生堂編

高瀬唯（千葉大学大学院園芸学研究科院生）

緑のボランティア参加に関する印象（回答者 29 名）

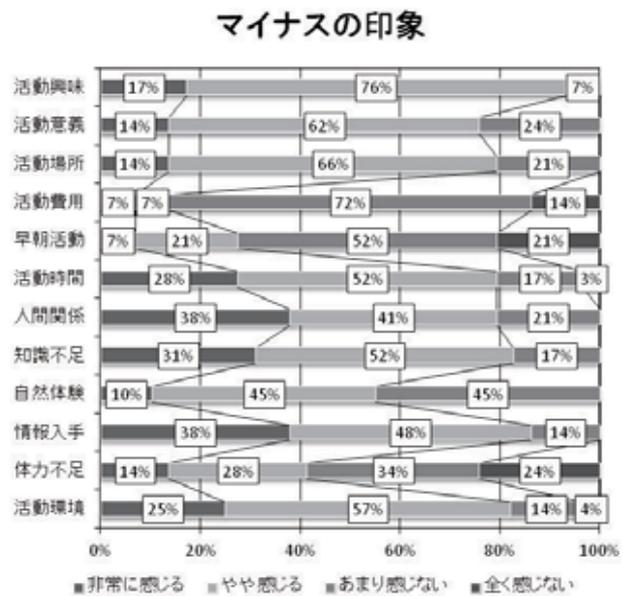
プラスの印象

約 9 割の人が、プラスの印象に関する全ての項目『植物にいやされそう、リフレッシュできそう』、『自然について自分なりの新しい発見ができそう』、『新たに色々な人と出会えそう、友達が作れそう』、『いい運動になりそう、いい汗がかけそう』と感じていることがわかった。



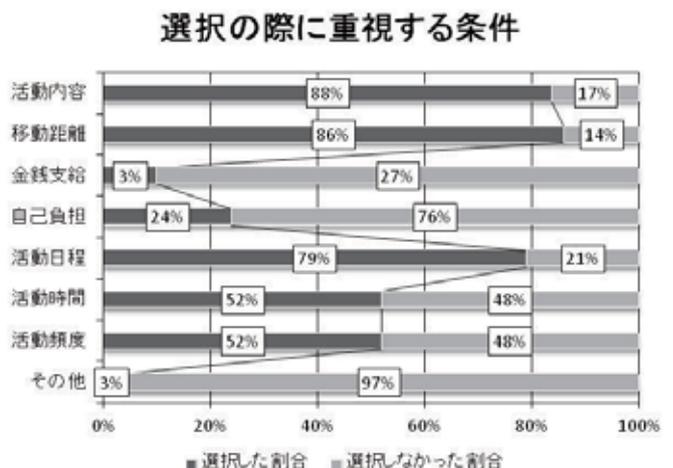
マイナスの印象

約 9 割の人が、『積極的に参加したくなるような魅力的な活動が少ない』（活動興味）、『情報の調べ方がわからない、知りたい情報が見つからない』（情報入手）と感じていることがわかった。また、約 8 割の人が、『活動内容が本当に自然を保全できるのか疑問である』（活動意義）、『活動場所が遠い、交通の便が悪そう』（活動場所）、『時間がとれない、日程があわなくて続けられなさそう』（活動時間）、『活動中 1 人ぼっちになりそう、他の人とうまく会話できるか心配だ』（人間関係）、『知識がなくて自分にできるか心配だ』（知識不足）、『汚れそう、虫に刺されそう、暑い、けがしそう』（活動環境）とそれぞれ感じているということがわかった。



参加する緑のボランティアを選択する際に重視する条件

参加する緑のボランティアを選択する際に重視する条件として（複数選択可能）回答者の約 9 割が『自宅から活動場所までの距離』（移動距離）と『活動内容』を選択したことがわかった。また、『活動日や活動の時間帯』は、約 8 割の選択率であった。



アンケート結果（企業編）

緑のボランティア参加に関するプラスの印象

(単数回答)

	癒し効果		知識向上		交流増加		運動増加	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
非常に感じる	10	34%	14	48%	6	21%	14	48%
やや感じる	17	59%	13	45%	19	66%	12	41%
あまり感じない	2	7%	2	7%	4	14%	3	10%
全く感じない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	29	100%

緑のボランティア参加に関するマイナスの印象

(単数回答)

	活動興味		活動意義		活動場所		活動費用	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
非常に感じる	5	17%	4	14%	4	14%	2	7%
やや感じる	22	76%	18	62%	19	66%	2	7%
あまり感じない	2	7%	7	24%	6	21%	21	72%
全く感じない	0	0%	0	0%	0	0%	4	14%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	29	100%

	早朝活動		活動時間		人間関係		知識不足	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
非常に感じる	2	7%	8	28%	11	38%	9	31%
やや感じる	6	21%	15	52%	12	41%	15	52%
あまり感じない	15	52%	5	17%	6	21%	5	17%
全く感じない	6	21%	1	3%	0	0%	0	0%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	29	100%

	自然体験		情報入手		体力不足		活動環境	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
非常に感じる	3	10%	11	38%	4	14%	7	25%
やや感じる	13	45%	14	48%	8	28%	16	57%
あまり感じない	13	45%	4	14%	10	34%	4	14%
全く感じない	0	0%	0	0%	7	24%	1	4%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	28	100%

参加する緑のボランティアを選択する際に重視する条件

(複数回答)

	活動内容		移動距離		金銭支給		自己負担	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
選択した割合	24	83%	25	86%	1	3%	7	24%
選択しなかった割合	5	17%	4	14%	28	97%	22	76%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	29	100%

	活動日程		活動時間		活動頻度		その他	
	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)	回答数(人)	全体(%)
選択した割合	23	79%	15	52%	15	52%	1	3%
選択しなかった割合	6	21%	14	48%	14	48%	28	97%
サンプル数(%ベース)	29	100%	29	100%	29	100%	29	100%

まとめ

今回のアンケート結果は、レンジャーズプロジェクト登録者へ行った同内容の調査結果とは異なった。回答者の8割が40代以上であったことによると考えられる。多くの人に参加してもらうためには、活動内容の充実化や活動場所、活動日程が重要な要素となってくると言える。継続的に参加してもらうために、活動に興味を持ってもらう工夫をするのと同時に、「自分が行った作業が自然のこういう部分に貢献しているんだ」と感じてもらえるよう、活動意義を参加者にわかりやすく伝えることがポイントとなってきたのである。また、レンジャーズプロジェクトでは様々なフィールドと連携をとり、参加機会のバリエーション化を図っていくことが大切であると考えられる。

6. 参加者レポート

竹入祐美子

レンジャーズプロジェクトの活動でもっとも面白いことは、人が手をいれることにより、自然環境が変わるということを経験型で学べることです。例えば、草むしりを1時間するだけでもする前とした後では景観ががらりと美しくなり嬉しくなりました。堆肥作りに参加させてもらった時は、秋に集めた落ち葉が冬になると葉っぱではなく、堆肥になっているのを実際に見て、自然の力はすごいと改めて感じました。と同時に、同じ現場に定期的に通うことで季節によって作業内容も景観も変わるということにも気づくことができました。また、作業の前に「なぜその作業が必要なのか」ということを説明して頂けるし、現地の方もいろいろなことを教えてくださるので勉強になっています。

レンジャーズプロジェクトは自分の都合に合わせて活動ができ、なおかついろいろな場所にいけるといふ派遣方式を取り入れたのはとても素晴らしいと思います。ボランティア活動しようと思ってもどこの団体を選んだらいいのかわからないし、団体が見つかったとしても活動日は毎回参加しなければいけないかもしれないと思うと腰が引けてました。しかし、このプロジェクトはきちんと活動されている団体をあらかじめ厳選していただけているので安心して活動ができます。それと、いろいろなところにお邪魔して思ったのは、日の目を浴びず、ひたすら自然環境保全をされている方々がこんなにもいらっしやること、そういった方たちが街の景観を守ってくださっていたという気づきでした。身近に自然が残っている!!!ということに気付ける活動だと思います。

事務局より

毎回のようにご参加いただいている竹入さん。本当にありがとうございます。レンジャーズの活動後に旅行に行かれるなど充実されたボランティアライフを送られています。そのスタイルは、新しいライフスタイルのモデルになるのではないのでしょうか。竹入さんのように、ボランティアが特別なものではなく、生活の一部として組み込まれるように、レンジャーズプロジェクトは今後も参加しやすい活動を提供していきます。

参加者の声

(2月23日、カーリットの森の作業後に感想を述べてもらいました。)

- ・久しぶりに自然の中で運動して、健康になれた。(30代女性)
- ・今日は集合の時から自分は若いほうかな、と思っていたが全く予想に反して、若い人も女性も多くて、仕事振りも女性がガッツリやっていて、ちょっと意外でした。また参加してみたい。(50代男性)
- ・2時間あっという間、少しは森がきれいになるのに貢献できたと思う。(20代男性)
- ・大きな木が切れて、ストレス発散出来たと思います。(20代女性)
- ・こういうちゃんとしたボランティアに初めて参加したのは初めてだったのですが、いい人が多くて、貢献出来た気もして、楽しかった。(20代女性)
- ・予想以上にガッツリ出来たのだが、まだ足りない!また参加したい。(40代男性)
- ・作業した分、目に見えて成果が出来るので、楽しかった。(40代女性)
- ・若い人がいっぱいいて関心しました。日本もこれから大丈夫だと思います。震災のボランティアでドブさらいとかやったが、林の中はいいですね。また来たい。(60代男性)
- ・のめり込みました(笑)。ただひたすらノコギリで作業している時は気付かなかったのだけど、いざ終わってみると自分が切っていたところが開けて「ああ、やったんだな」という実感があった。「あと、足りない。もっとやりたい。」(20代男性)

7. 有識者の声

コーディネータカこそレンジャーズプロジェクトの強み

河合太一（横浜市環境創造局政策課）

特定非営利活動法人自然環境復元協会から「レンジャーズプロジェクト」を横浜で展開したいとの相談が横浜市環境創造局政策課にあったのは2011年の春。神奈川県「新しい公共助成金」の獲得に向け、横浜エコアップ研究所のサポートを得ながら協働して取り組んだが、残念ながら採択には至らなかった。

その後、企画のブラッシュアップや各方面との調整等、精力的な活動の結果、横浜みどり税を活用した「みどりの夢かなえます事業」に採択され、無事スタートされたことに祝意と敬意を表したい。

「高齢化と人手不足」。横浜の森づくり市民団体がそろって口にする言葉だ。これは昨年度のレンジャーズプロジェクトの報告書を見てもわかるとおり、どこの団体も同じように抱えている課題である。

この課題を解決すべく本プロジェクトは2010年に立ち上げられた。それから3年足らずで登録者数は800人を超え、その半数以上を20代以下が占めるという上々のスタートを切っている。

「トーキョーレンジャーズ」として始まった本プロジェクトの横浜参入にあたっては、特定非営利活動法人よこはま里山研究所 NORA というパートナーを得たことで、一気に6か所のフィールドを確保できた。これは非常に大きかったと思う。

HPに掲載されたレポートを見ると、本格派のヤマ仕事から里山の農作業、果ては工業地帯の緑地管理まで、個性豊かなそれぞれのフィールドで充実した活動が行われていることが感じられ、自分も登録しようと思わせるものとなっている（事実、私もそのクチだ）。きっと参加者にも受入団体にも満足度の高いものとなっているだろう。

この成功は、当を得たコンセプトや参加しやすいシステム、クオリティの高いホームページといった要素はもちろんだが、信頼で人をつなぐ優秀で熱意のあるコーディネーターがあってこそのもと思う。



さて、順風満帆のスタートを切ったかのように見えるレンジャーズプロジェクトの今後の展開であるが、まだまだ大きな課題がいくつも行く手を阻んでいる。

たとえば、レンジャーたちがいつまでも「お客さん」のままでは、団体の高齢化問題に対する回答とはならない。

また、コーディネータ業務は無償ではあってならない。プロジェクトを持続可能なものとするためには継続的な資金獲得が必要だ。

乗り越えなければならない壁はまだ続くが、慢性的な「高齢化と人手不足」にあえぐ森づくりボランティア業界に、一条の光をもたらした「レンジャーズプロジェクト」の、今後ますますの活躍を期待したい。（自分としても、横浜の森づくりに関わる市民の一人として、何か役に立ちたいと思う。まずはレンジャーとして初出動を果たしたい）

念願の初出動を果たした筆者

（2/9JFE 緑地にて）

8. 協力者の声

里山保全におけるレンジャーズの意義について（社会学的観点からの意義）

NPO法人よこはま里山研究所（NORA）

代表理事 松村正治氏

NORAのこれまでの取り組み

NORAは、2000年に団体を設立して以降、都市近郊に残る里山（樹林地・農地、公園・緑地など）と都市に住む人びとをつなぐ活動を続けてきた。たとえば、里山保全ボランティアを養成し活動団体を組織化したり、里山に関する各種講座の企画・運営を実施したりしてきた。今日、横浜市内・神奈川県内では、市民のボランティア活動によって身近な環境を保全する動きが活発であるが、NORAはそうした動きを推進してきた団体の1つと言えよう。

しかし近年、多くの市民団体では世代交代が進まず、会員の固定化と高齢化が課題となっている。一方、環境保全ボランティア活動への参加を希望している若い世代は少なくない。問題は、そうした若者が活動に参加しやすい場と機会が提供されていないことにある。適当な仕組みをつくることで、人びとと里山をつなぐことが求められている。

レンジャーズをはじめてみる感想（特に恩田の谷戸）

スタートして半年未満だが、20～30代を中心に毎回10人程度が集まっている。参加者の満足度は高く、受入団体からも活動が進む、あるいは活気づくと好評で、一定の成果を上げている。恩田の谷戸の場合、このプロジェクトを通して参加したレンジャーズの中から入会者が現れたり、近隣に住んでいたけれども知らなかった学生がリピーターとなったりと、地域の活動団体を力づけることにも役立てたように思われる。毎回、谷戸で採れた農産物を生かした昼食が提供され、一人ひとりが自分のことを話す機会があり、豊かなコミュニケーション環境ができている。こうした点も、都市近郊の環境ボランティア活動では大切なことであろう。

課題と今後の展望

本事業では、人と人、人と自然をつなぐコーディネーターが慢性的に不足していることや、活動の成果を評価する方法が確立していないことなどの課題がある。また、今のところ、助成金に頼って事業を実施していて自立性に乏しいため、今後は多様なアクターを巻き込んでいくことも必要となっている。

まずは、コーディネーターを養成する講座・研修を開催すべきだろう。また、レンジャーズ対象のスキルアップ講座・研修等を開催することで、身近な地域の環境を守る若者の養成をはかり、多世代の市民によって里山を保全していく体制の構築をめざしたい。

レンジャーズ事業の社会的な価値

誰もが環境ボランティア活動に参加しやすい仕組みをつくることで、環境保全を实践する人びとを増やし、若返りも図れると期待できる。これにより、停滞気味の里山保全の現場に活気が戻り、活動が進むことで生物多様性を豊かにすることができれば、大きな社会的な価値を生むことになる。

トーキョーレンジャーズでの仕事場カリキュラムの実施と効果

専門学校東京テクニカルカレッジ
環境テクノロジー科教員 井上綾子氏

まず、本校学生に活動の場を提供し、丁寧に指導して下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科は、環境の 調査技術 浄化技術 保全技術 の3つを柱に授業展開を行い、総合的に「環境」を学んだ技術者の育成を目指しています。卒業後は就職する学生がほとんどなので、現場で活躍できる人材育成のために化学分析や植生調査など様々な実習に取り組んでいます。

学生の多くは「自然環境保全」に強い興味を持ち、自然に携わる仕事や環境に貢献できる仕事を希望していますが、入学以前に野外での作業経験がある学生は少数派です。野外活動では特に自主性が必要になりますが、学校の実習は学生にとってあくまで「授業」なので、どうしても受身的な雰囲気になってしまうところがあります。

また、企業から学生に対してコミュニケーション能力の向上を求められることが多くなり、学生の社会経験不足を補い、在学中に十分な社会性を養えるようなカリキュラムの導入が必要になってきました。

このような背景から、本学科では「コミュニケーション能力の向上」と「環境保全に関する知識・技術の習得」を主な目的とし、学生が学外で活動する「仕事場カリキュラム」を実施しています。この一環で今年は2年生9名がトーキョーレンジャーズに参加させていただきました。以下、活動に参加した学生の感想を紹介させていただきます。

- ・皆と力を合わせて一つの作業を行うチームワーク、効率よく作業を進めるための段取り、を考える癖がついた。
- ・一年次に比べて大勢で活動することが増え、自然と作業中に会話することが多くなった。
- ・積極的になった。どのようにしたら効率的にできるか考えるようになり、作業が早くなった。
- ・久しぶりに体をよく動かしたので体力が少し戻った。一年次よりも言われなくても自分で動けるようになり、作業も早くなった。
- ・コミュニケーションや連絡も大切だが、体調管理が重要だと思った。一年次に比べて欠席が少なくなった。
- ・公園の規模や内容によって、管理の仕方や作業がずいぶん違って来るものなんだと実感した。
- ・私達が利用している公園は、一見何の変化もないように見えているけれど、実際は人から見えないうちで管理されている。その管理のおかげで公園が維持されていることがわかった。公園の維持管理は大切だと思った。

今年度は就職後にトーキョーレンジャーズに参加した卒業生もあり、活動を通して自主性や積極性が身についたと実感できるケースが増えてきました。学生には今後も様々な年代の方や、異なる専門性を持った方との交流を続け、豊かな人間性を備えた環境技術者を目指してもらいたいと思います。

9. インターンレポート リーダーとして

認定 NPO 法人自然環境復元協会
長期インターンシップ生 金子雅佑

私がレンジャーズの活動に初めて参加したのは、2012年5月の板橋 サンシティでの活動であった。初めてのミッションということもあり緊張しながら活動したが、活動が終わるころには他の参加者とも打ち解けることができ、同時に友人もできた。この時「また参加しよう」と思わなければ、今こうしてインターンシップ生として活動している自分は存在していないと思う。

そして5ヶ月後、私はインターンシップ生として一般参加者をまとめるリーダーの業務に携わることとなったが、想像以上に大変な業務であった。一般参加者として参加していた時は、「楽しく活動できれば良い」「自然と触れ合えれば良い」といった考えのもと気軽に参加していたが、リーダーともなると「いかに活動を楽しんでもらうか」といったことを考えなくてはならない。ミッション当日は参加者とのコミュニケーションはもちろんのこと、スケジュールやミッション内容を把握し、参加者にわかりやすいように伝えなくてはならず、また怪我の無いように準備体操をし、現地団体の方と当日のスケジュールの最終確認を行わなくてはならない。特に遅刻した参加者と連絡を取り合う時は、自分のコミュニケーション能力やスケジュールをいかに把握しているかの全てが試される時だと思う。そして当日の業務以外でも、レンジャーズは気軽に参加できるということでリピーター率が非常に高いボランティア活動となっているが、それを支えるためにはホームページやメールを、参加したくなるような内容にしたり、ブログの更新といった事務的な作業も行わなくてはならない。中でもキャッチコピーを考えるとこの作業は日常では経験しないため、最初はかなり戸惑ったが、最近ではようやく考えられるようになってきた。大変骨の折れる作業ではあるが、一般参加者の時には味わえなかった達成感や、自分がリーダーとして活動した時に初めて参加した人がリピーターとしてもう一度参加してくれた時はとても嬉しいものであった。

リーダー業務を通じて、私は作業全体を見渡す能力と、参加者一人ひとりに気を配る能力の2つが身についたと思う。前者は客観的に作業を進行するために必要であり、後者は参加者の安全面等を配慮する上で必要である。そして両者のバランスをとってこそレンジャーズを楽しく、気軽に参加できるボランティアにできると思う。

これからもリーダー業務を続けていく上で、私はこれまでよりも参加者とコミュニケーションをとっていかうと思う。活動が終わった後、「今日はとても楽しかった。また参加したい」と思ってもらえるように。

事務局より

ボランティア活動のリーダーというによく“合コンの幹事ができる人”と言われることが多いのですが、レンジャーズのリーダーはまったく別の存在です。いかに影で支えることができるか、困っている人にそっと歩み寄れるか、など目立たない存在です。その一方で、ブログでは自分なりの表現での報告を求められます。金子君は、参加者や団体のことを思う想像力や、ブログでの表現力、ともにバランスがよく、今後の活躍に期待できる人材です。

レンジャーズ促進のために

玉川大学 農学部 生物環境システム学科
3年 町田望美



ECO - TOP プログラムの一環として、認定 NPO 法人自然環境復元協会のインターンシップに参加させていただきました。活動1つである、レンジャーズプロジェクトを主に経験しました。この活動は、多くの環境活動団体が、活動家の高齢化により経営が困難となっているため、その手助けとして発足しました。このようなバックグラウンドの下、私たちは活動拠点がいくつかある中、トキョーレンジャーズの柏の宮公園にて活動をしてきました。

活動内容は、主に2つに分けられ、1つ目が「アメリカザリガニの捕獲作業」でした。捕獲意義として、まず外来生物であること。次に、穴を掘るため水の水位が下がり、水田で育てている稲の生育を妨げてしまいます。作業時の捕獲数は30匹前後でしたが、多いときは100匹も捕れてしまいます。長靴を履いて網でザリガニを捕るような作業は日常では経験しないことなので、子供のころにかえった様でした。

2つ目の活動は、雑草（チガヤ）の除草作業でした。チガヤはイネ科の植物で成長すると草丈が高くなり、先端が垂れてきます。結果、背の低い植物が育たなくなり、日陰になります。除草はすべて手で抜き取る作業でした。活動した時は、20名ほどの参加人数だったため、あっという間に終わり、多くの方とコミュニケーションを取りながらの作業だったので、楽しかったです。

この活動を基に、レンジャーズの専用ホームページにて活動報告をブログとして掲載しました。ブログの掲載意義として、多くの方にレンジャーズを知ってもらい、参加人数を増やそうという目的がありました。そこで、「マーケティング理論」を基に作成にあたりました。潜在層から顕在層への増加を目的としたとき、レンジャーズの活動の利点を挙げました。「午前中の3時間のみなので重労働ではない！」等... 様々な案が浮かんだ中、柏の宮公園だけにしかない、良い所を見つけようと考えました。それが、「トトロのシュークリーム屋さん」でした。



柏の宮公園から約15分程度歩いた所にトトロの形をしたシュークリーム屋さんがあります。それを利用し、ブログにて「ミッションを達成の後は、自分への御褒美も忘れずに！」という言葉で柏の宮公園ならではの事についても書きました。結果、掲載後の柏の宮公園の参加人数は増え、とても嬉しかったです。

このインターンを終え、環境について現場の知識を増やすだけでなく、それを維持している人たちの声が生で聴けて、良い経験になりました。また、その声を受け止めるだけでなく、情報発信する手段も学ぶことができました。インターンシップはこれで終了になりますが、このレンジャーズの活動は続けていきたいと思いました。

インターン レポート

福島県郡山市よりインターンとして参加した近藤君から提出されたレポートを、事務局が抜粋して掲載しています。

自然環境復元協会インターンシップ

専門学校国際情報工科大学校 地域環境学科 2年 近藤 孝史

今回私は環境活動に従事している方々の仕事内容について学び、今後の自分自身の環境活動に生かしていくために東日本大震災復興支援プロジェクトの基金を利用して12月14日から12月17日までの4日間、東京にある自然環境復元協会にインターンシップに行ってきた。

一日目

- ・事務所に到着し挨拶をすませ、早速作業。
- ・最初は手作業でアンケートをわかりやすいように分け、一つずつパソコンで打ち込んでいった。
- ・15時頃、明治大学へ移動。インターン生である上遠野さんと合流。加藤先生の講義の手伝いへ。
- ・井尻さんによる自然環境復元協会と東京レンジャーズの説明となった。
- ・自然環境復元協会の活動というのは実際に現場に出て行動することが多いのだと思っていたのだが、実際はこういった感じに様々な人の前で発表等を行っていくことの方がかなり多いということであった。
- ・講義が終了し、事務所へ戻る。事務所に到着後はアンケートのまとめを再開する。
- ・20時00分頃、その日の作業を終了して宿泊地である蒲田駅へ。

二日目

- ・午前中はアンケートの残りを完成させ、資料集めなどのためにエコプロダクツが開催されている東京ビッグサイトへと向かう。複数のブースを訪れお話を伺った。
- ・今回見てきた展示全体から感じたのは、まず自然環境保護の内容について知ってもらいたいというものだった。ここ数年で社会の環境に対する考え方は変わってきていると思うが、まだまだ環境の保護、保全などについては知られていないことが多い。このような機会を通じて様々な方に知ってもらい、そこから興味を持ってもらい、実行に移してもらいたいという気持ちが今回訪れたブースにいたすべての方から感じとれた。このような大きなイベントから全国へと自然環境保護のための活動が広がってほしいと思う。



三日目

- ・レンジャーズプロジェクトに合流するため井の頭線浜田山駅に到着、参加者全員の集合を待つ。
- ・柏の宮公園に到着し、自己紹介。胴長を着用し、残った人達は長靴を履いた。私は胴長を着用。
- ・公園管理者等の紹介、公園内の池や田んぼの説明とその時行っていた水質調査の見学を行った。
- ・胴長の人たちは長手袋を着用し池の中に入って池に落ちた葉っぱをかごで集めた。長靴の人たちは池の周囲に落ちている葉っぱの回収と池からあげた葉っぱの移動を行った。
- ・池には主にメダカやヤゴ、エビなどが生息しているらしく、葉っぱを集めた時になるべく泥を落

とすようにとの指導があった。また、かごもすくい上げたあとにそういった生物が落ちやすく、葉っぱが落ちにくいような大きさの網目のものを選んでいとのことであった。

- ・この池の落ち葉を回収しなければならない理由も説明してもらった。水面が埋まってしまったり、水質の悪化などは説明を受ける前から予測はできていたが、悪臭を放つと池の水を全部吸い上げられてしまうというのは全く予想していなかった。住宅地と密接している東京都などではそういうことも考えて管理しないといけないので田舎よりもかなり細かい管理が必要らしい。
- ・落ち葉の箱の裏には丸太が積んであり、かなりたくさんの生き物がいるとのことであまり踏まないでくださいとの注意があった。池などの水があるところが重視されやすいが、こういう場所もちゃんと1種のピオトープなのでしっかり守っていきたい。
- ・12時に倉庫前に戻り、胴長を脱いで着替えを済ませる。
- ・全員が着替え終わって一段落したところで今日の感想の発表を行った。自分は東京都等の都会では悪臭についてももしっかり考えて管理しないといけないというのに今日初めて気が付くことができたなどの感想を述べた。
- ・全員の感想発表が終わると昼食の時間になり、昼食を食べない方々は先に帰った。
- ・浜田山駅に到着し、井の頭線、山手線、京浜東北線を乗り継いで蒲田駅へ。

四日目

- ・7時半ごろホテルを出発し高田馬場の事務所へ10時頃事務所に到着。
- ・事務所内のパソコンを借りて2日目、3日目の報告書の作成を行った。
- ・15時頃報告書の作成が終了したので事務所の方々に挨拶をして帰路へ。
- ・高田馬場駅周辺で時間を潰したのち、山手線で東京駅へ。
- ・19時30分のバスで郡山駅へ向かう。
- ・11時20分ごろ郡山駅到着。
- ・11時40分ごろ自宅に到着。

~この4日間を通じて~

今回、自然環境復元協会でインターンシップをさせていただいて、事務所内や講義などでどのように活動していたのかというのを初めて知ることができました。ボランティア活動などの野外での活動などは実際に見たことや体験したことがあったのでどういったものか大体はわかっていたが、その裏で自然環境復元協会の方々がどのような働きをしているのかというのは知る機会がなく、今回のインターンシップはかなり貴重な体験になりました。どのようにしてボランティア活動自体を企画しているのかといったことや、ボランティア活動参加募集を募集する側で見ると、ボランティアに参加してくれる方々への感謝の気持ちやある程度の規模になってくると簡単にはボランティア活動できないということを理解できました。

また、エコプロダクツに行けたのはかなり楽しく見学することができた上に、様々な保全活動を行っている方々の話を聞くことができ、とても有意義に過ごすことができました。今回が初参加で時間もあまりなかったためにあまり多くを見て回ることができなかったのだけが心残りです。

今回のインターンシップでボランティア活動に対する意識を高めることができました。来年からは私も東京で働きますので機会があったら、またボランティア活動に参加してみたいと思っています。

10. 効果の検証

レンジャーズプロジェクトを研究対象とするインターンの高瀬さんにご協力いただきました。

利用者の保全活動参加への意識からみる
緑地保全ボランティア人材派遣システムの特徴

千葉大学大学院 園芸学研究科
博士前期課程 高瀬唯
千葉大学大学院 園芸学研究科
准教授 古谷勝則

現在、日本各地で、市民による緑地の保全・創出のための活動が盛んに行われているが、活動参加者不足と参加者の高齢化という課題が指摘されている^{1), 2)}。この課題を解決するために、認定 NPO 法人自然環境復元協会がレンジャーズプロジェクトという若手ボランティア人材派遣活動を実施している。保全活動団体の高齢化が進み、新規メンバーが集まらない一方で、ボランティアとして環境保全活動に参加したいという高いニーズがあることに着目し、2010 年に開始された³⁾。レンジャーズプロジェクトの活動参加の流れを図 1 に示す。活動参加募集のメールを見た登録者が自分自身の都合がつくときに活動したい場所へ参加するという、参加の選択を登録者が気軽にできるシステムである。2012 年 12 月時点で、登録者数は 820 名である。主な派遣先フィールドとして、東京都 5 団体、神奈川県 7 団体、埼玉県 1 団体の保全活動団体と連携を行っている。レンジャーズプロジェクト登録者のうち 456 名は 20 代以下であり、このような若手ボランティア人材派遣が普及すれば、若手の人材不足を解決できるのではないかと考えた。そこで、本研究では、レンジャーズプロジェクト登録者の活動参加のへ意識を環境ボランティア見本市参加者の意識と比較することにより把握し、緑地保全ボランティア人材派遣システムの特徴を考察することを目的とした。

2. 研究の方法

本研究は、レンジャーズプロジェクト登録者と 2012 年 7 月 14 日に行われたボランティア見本市来場者の 2 集団に調査をした。環境ボランティア見本市来場者に調査したのは、登録者と非登録者の調査結果を比較することでレンジャーズプロジェクトの特徴を考察しようと考えたからである。

(1) アンケートの質問内容

質問項目として次の 3 つを設定した。() 回答者の属性(性別・年齢層・家族構成)、() エコ活動、() 活動参加に関する印象である。表 1 に、() エコ活動の質問項目を示した。表 2 に、() 活動参加に関する印象の質問項目を示した。

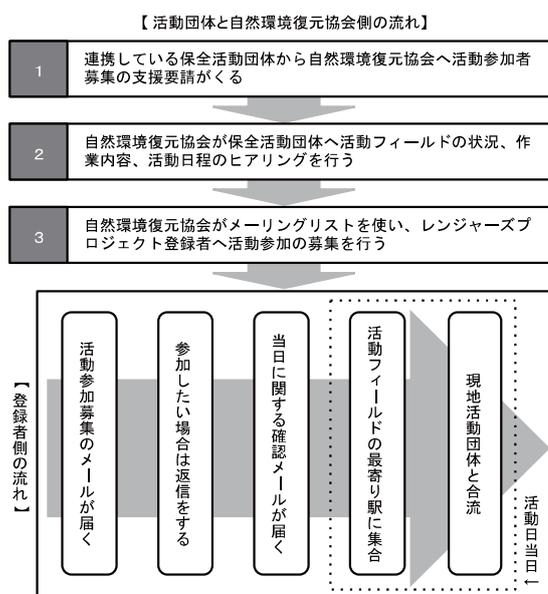


図 1 レンジャーズプロジェクトの流れ

(2) レンジャーズプロジェクトでの調査方法

レンジャーズプロジェクトのホームページ上でアンケートを行った。2012年9月19日から10月10日までの計22日間を回答期間とした。アンケートの回答は69名から得られた。アンケートを開始した時点で登録者数は666名であった。

(3) 環境ボランティア見本市での調査方法

環境ボランティア見本市当日の2012年7月14日に会場内で調査を行った。環境ボランティア見本市は、「環境ボランティアをやってみたい市民と環境団体の出会いの提供」を目的としたイベントである。来場者数は例1000人強である。環境ボランティアに興味がある来場者106名から回答を得られた。

(4) 分析方法

環境ボランティア見本市来場者とレンジャーズプロジェクト登録者の回答結果の差の有無を分析した。名義尺度である属性の分析には、²検定を利用した。順序尺度である活動参加に関する印象とエコ活動の分析には、クラスカル・ウォリス検定を利用した。

3. 結果・考察

(1) 回答者の属性

まず、回答者の性別を図2に示す。レンジャーズプロジェクトでの調査(以降レンジャーズ調査)では、男性が42%、女性が58%であった。環境ボランティア見本市での調査(以降見本市調査)では、男性が57%、女性が43%であった。²検定の結果、レンジャーズ調査と見本市調査の間では、回答者の性別に有意差はみられなかった。次に、回答者の年齢層を図3に示す。レンジャーズ調査では、20代が46%で最も回答数が多かった。同じく見本市調査でも、20代が39%で最も回答数が多かった。図3より、若年層による回答が多く、レンジャーズプロジェクトのターゲット層に調査を行えたと言える。また、²検定の結果、レンジャーズ調査と見本市調査の間では、回答者の年齢層に有意差はみられなかった。そして、回答者の家族構成を図4に示す。²検定の結果、レンジャーズ調査と見本市調査の間では、回答者の家族構成に有意差はみられなかった。

属性に関するどの質問項目も、レンジャーズ調査と見本市調査の間で有意差が見られなかった。このことから、レンジャーズの回答者と見本市の回答者の属性傾向は同じだとみなせて、調査結果の比較が可能であると考えた。

(2) 実践している・興味のあるエコ活動

レンジャーズでの調査結果を図5に示す。また、見本市での調査結果を図6に示す。両調査とも、実践している・興味がある回答者の合計が全ての項目で8割を超えており、回答者のエコ活動への関心の

表1 エコ活動に関する質問項目

項目名	項目の詳細
1	ゴミの分別 ビンやペットボトルなどゴミを分別している
2	エコバック 買い物をするときはエコバックを持参する
3	省エネ商品 家電製品は環境に配慮されている商品を選ぶ
4	水配慮商品 洗剤など水回り品は環境に配慮されている商品を選ぶ
5	CSR充実 積極的に環境への取り組みを行っている企業の商品を選ぶ
6	寄付金商品 環境活動への寄付がついている商品を選ぶ
7	地産地消 地産地消を意識して食品を選ぶ
8	公共交通 できるだけ電車やバスを利用する
9	エコカー 車は環境に配慮されているものを選ぶ

回答者は各項目を「常々実践している」「ときどき実践している」「実践はまだだが、興味がある」「興味はない」の4段階で評価

表2 活動参加に関する印象の質問項目

項目名	項目の詳細
ブラスの印象	1 癒し効果 植物に癒されそう、リフレッシュできそう
	2 知識向上 自然について自分なりの新しい発見が出来るそう
	3 交流増加 新たに色々な人と出会えそう、友達が作れそう
	4 運動増加 いい運動になりそう、いい汗がかけそう
マイナスの印象	1 活動興味 積極的に参加したくなるような魅力的な活動が少ない
	2 活動意義 活動内容が本当に自然を保全できるのか疑問である
	3 活動場所 活動場所が遠い、交通の便が悪そう
	4 活動費用 費用がかかる、費用が気になる
	5 早朝活動 朝が早そう
	6 活動時間 時間が取れない、日程があわなくて続けられなさそう
	7 人間関係 活動中1人ぼっちになりそう、他の人とうまく会話できるか心配だ
	8 知識不足 知識がなくて自分に出来るか心配だ
	9 自然体験 自然で過ごした経験が少なく参加のハードルが高い
	10 情報入手 情報の調べ方がわからない、知りたい情報が見つからない
	11 体力不足 体力がもつ心配だ
	12 活動環境 汚れそう、虫にさされそう、暑い、ケガしそう

回答者は各項目を「非常に感じる」「やや感じる」「あまり感じない」「全く感じない」の4段階で評価

効果の検証

高さが伺える。クラスカル・ウォリス検定の結果、レンジアーズ調査と見本市調査の間では、全ての項目において有意差が見られなかった。よって、レンジアーズの回答者と見本市の回答者はエコ活動への関心の程度が同じと考えられる。

(3) 緑地保全活動参加に関する印象

保全活動参加に関するプラスの印象とマイナスの印象の調査全体の結果を図7と図8に示す。調査全体にプラスの印象に関する結果として、全項目において回答の約9割が「非常に感じる」または「やや感じる」であった。また、クラスカル・ウォリス検定の結果、レンジアーズ調査と見本市調査の間に、全ての項目で有意差は見られなかった。つまり、保全活動参加に関するプラスの印象では、レンジアーズ調査と見本市調査の調査結果の傾向に違いはないと言える。

調査全体のマイナスの印象に関する結果として、活動場所が最もマイナスの印象として感じられていることがわかった。「非常に感じる」と「やや感じる」の回答率を合わせると6割以上の回答率であった。また、同じく、活動時間も同じく回答率が6割を超していた。よって、活動場所と活動時間は、活動参加に関するマイナスの印象を与える要因になるのではないかと考えられる。また、クラスカル・ウォリス検定の結果、レンジアーズ地調査と見本市調査の間に、人間関係 ($p<0.01$)、知識不足 ($p<0.05$)、自然体験 ($p<0.01$)、体力不足 ($p<0.01$) において有意差が見られた。これら4つの項目における、調査別の詳細な結果を図9に示す。「あまり感じない」と「全く感じない」の回答率合計で見ると、人間関係 (レンジアーズ 55%、見本市 70%)、知識不足 (79%、64%)、自然体験 (87%、80%)、体力不足 (79%、66%) となっていた。レンジアーズ調査は、人間関係にマイナスの印象を感じない回答率が、見本市調査より15%低い。つまりレンジアーズ登録者は人間関係をマイナスの印象として感じる傾向が強いことが考えられる。一方で、知識不足、自然体験、体力不足では、人間関係とは逆になっている。レンジアーズ調査の方が、「あまり感じない」と「全く感じ

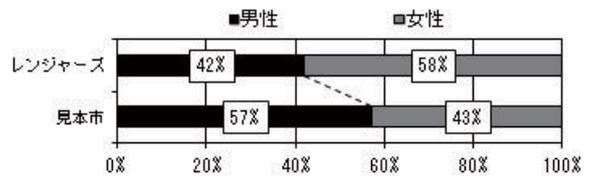


図2 回答者の性別

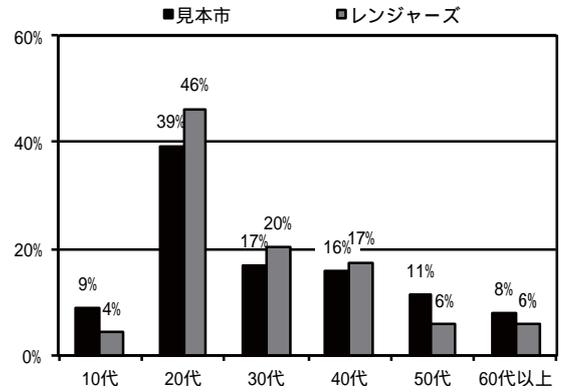


図3 回答者の年齢層

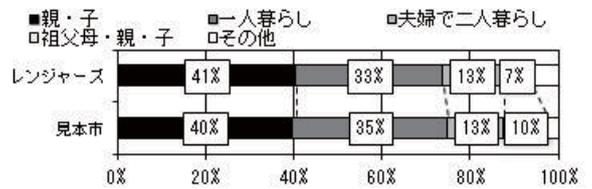


図4 回答者の家族構成

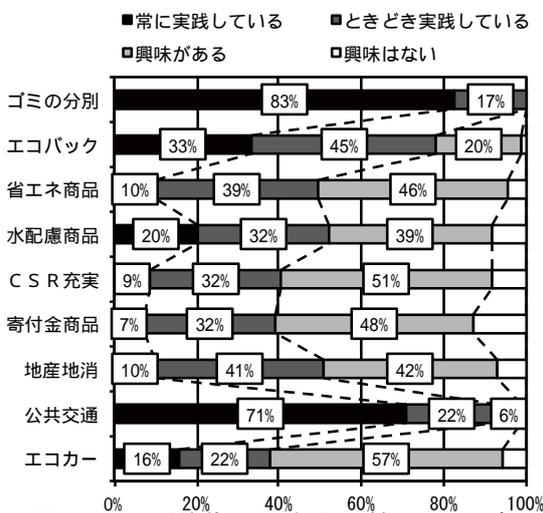


図5 エコ活動に関する回答 (レンジアーズ)

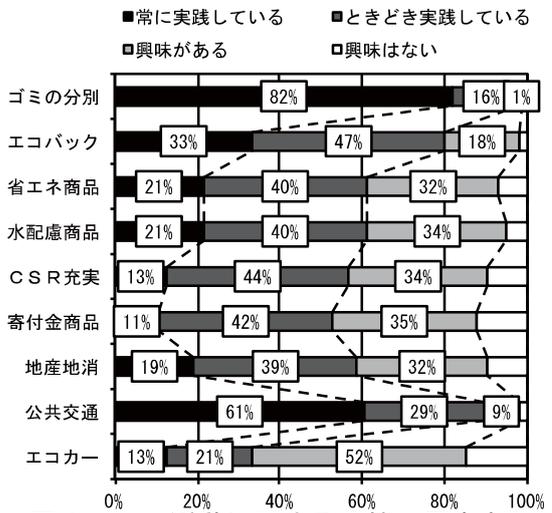


図6 エコ活動に関する回答 (見本市)

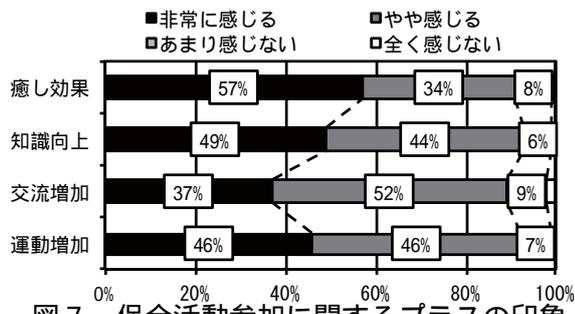


図7 保全活動参加に関するプラスの印象

ない」の回答率が高く、レンジャーズ登録者は知識不足、自然体験、体力不足でマイナスの印象を感じていないと考えられる。レンジャーズプロジェクトは、活動時間を週末の半日に設定することで、参加者が疲労しすぎない配慮を行っている。また、活動の最中も活動リーダーや現地の活動団体が技術的指導を行って、初心者でも安心して活動できる配慮も行っている。これらのことが、マイナスの要因として、登録者が知識不足、自然体験、体力不足を感じないことへつながっていると予想される。

4. まとめ

本研究では、若手ボランティア人材派遣活動登録者と属性やエコ活動に対する関心が同じ非登録者の保全活動参加への意識を比較することで、レンジャーズプロジェクトの特徴を考察した。調査の結果から、レンジャーズプロジェクト登録者は知識不足、自然体験、体力不足を非登録者よりも感じていないことがわかった。レンジャーズプロジェクトの「週末・半日だから翌日に疲れを残さない」、「初心者でも安心」という活動コンセプトが、うまく活動内で確立されている可能性があることを示唆していると考えられる。

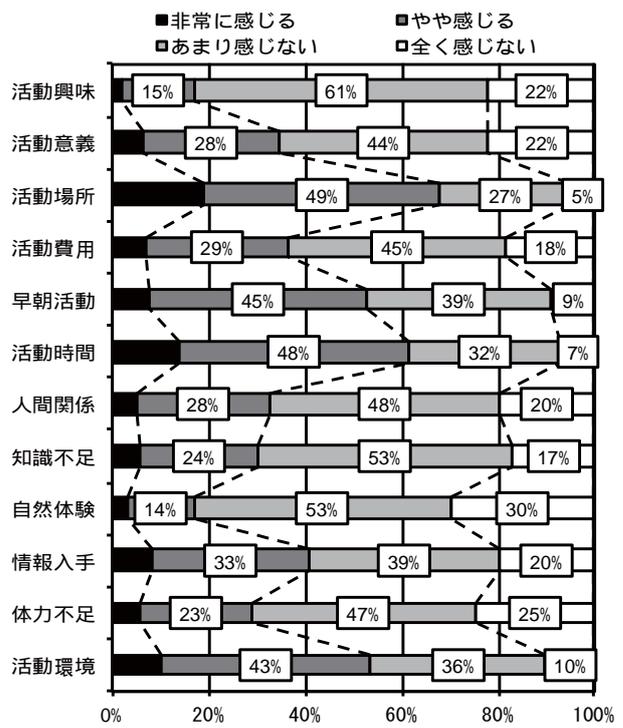


図8 保全活動参加に関するマイナスの印象

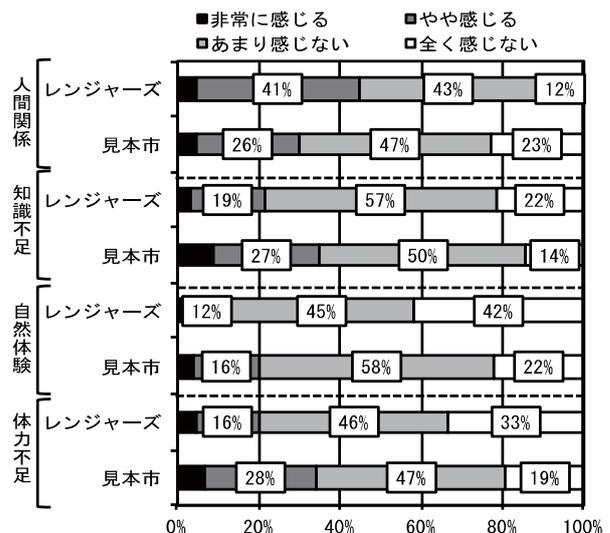


図9 マイナスの印象における調査別の結果

謝辞

本調査を行うにあたり、NPO 法人自然環境復元協会事務局の井尻さんには大変お世話になりました。また、会場内での調査の許可をしてくださった環境ボランティア見本市関係皆様にも大変お世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 栗田和弥・植竹薫 (1999) : 関東地方における市民による環境 NPO の自然環境保全活動に関する研究 : ランドスケープ研究 62(4) , 400-404
- 2) 中島敏博・古谷勝則 (2004) : 千葉県北総地域の残存緑地に対して里山活動参加者が期待する里山イメージに関する研究 : ランドスケープ研究 67(5) , 653-658
- 3) 認定 NPO 法人自然環境復元協会(2012) : 認定 NPO 法人自然環境復元協会レンジャーズプロジェクト 2011 年度成果報告書

11. 広報・PR 活動等

A) 講演等

場 所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）
 日 時：2012年6月27日（水）19:00～21:00
 行事名：「環境ボランティア見本市2012」プレセミナー
 『プロボノ・カレッジ第1回』企業にもメリットをもたらす「プロボノ」とは何か？
 内 容：レンジャーズプロジェクトのパンフレット作成のプロボノ事例の紹介。

地球環境パートナーシッププラザホームページ (<http://www.geoc.jp/news/15260.htm>)より
「(特活)自然環境復元協会 リーフレット作成 事例について

不破稔氏 <(株)ブリッジ アートディレクター>
井尻裕子氏 <(特活)自然環境復元協会 事務局>

(特活)自然環境復元協会が実施する、トキョーレンジャーズ(人手不足で悩む環境活動家の元に若手の人材を集めて送る)の全国版としてレンジャーズプロジェクトを展開。広報としてリーフレット作成を(株)ブリッジに依頼したことが不破さんとの出会いとなり、緑のボランティアスタートガイドが完成。

講師プロフィール*****

不破 稔(むわ のる)氏 株式会社 BRIDGE アートディレクター

1974年生まれ。2001年よりBRIDGEにて広告制作に携わる。現在まで、タグポート・川口氏のデザイン制作を担当する。JR九州・九州新幹線 広告キャンペーン「旅する新幹線」でアートディレクションを担当。(社)日本アドバタイザーズ協会主催「消費者のためになった広告コンクール」で銀賞を受賞するなど、広告制作の最前線で活躍している。代表作にNTT「大学受験倶楽部」広告キャンペーン 他。

井尻)パンフレットをデザインするだけではなく、デザインで社会変革ができる人、メッセージを伝えられる人を探していたところ、不破さんのご紹介を受けた。

不破)熱意が伝わり、一緒にプロジェクトをやっていきましょうと決めた。NGO・NPO側は、やりたいことや理念を明確にしておくことが大切。

井尻)全てにおいてプロ意識を取りながら次々と進めていった。

不破)いいところを発見して伝え、足りないところを解決していくのが仕事なので、今回実際にレンジャーとして参加。活動を経験したところ、実態が希薄だと思ったためロゴマークを作成。それを所有することで、自分が参加しているという実態が掴みやすくなったと感じた。同時に、NPOの活動を押し付けるのではなく分かりやすいリーフレットを作成することも提案。

井尻)そして不破さんとの信頼関係を築き上げていき、責任は取るので自由にやって欲しいと伝えた。今後とも関係を続けていきたい。

不破)参加方法は様々だが、多少の余裕をもって本業を邪魔することなく参加すること。しかし参加すると決めたなら、中途半端にやらずに、本気でやっていくこと。それがプロボノの意義。

井尻)受け入れるNPO側もプロ意識をもつことが大切。

不破)クリエイターの、クリエイティブに対する考え方も千差万別です。例えば、デザインと言っても「考えを形にまとめる」と言う事が得意なデザイナーから、「思いついたイメージをどんどん形にする」というデザイナーもいて、同じ宿題をやらせても考え方が違うので、でき上がったクリエイティブの機能はだいぶ違います。プロボノをクリエイターにお願いする際は、クリエイターそれぞれの得意な「つぼ」に嵌る部分を聞かせる必要があります。その得意分野の見極めが重要だと思います。まずは本音で理念をぶつけ、そこで帰ってきた答え(プレゼン等)が、発注側か、ユーザー側か、クリエイター側か、真ん中か、どこらへんに向いているのかをじっくり観察してください。でも、決断するときの「あなたの感覚が大切」という事も忘れないでください。

井尻)プロボノとは基盤整備だけではなく、こういった形での成果も残せるということを伝えていきたい。ありがとうございました。



場 所：麻布大学

日 時：2013年1月22日（火）

内 容：ゲストスピーカーとして登壇

市民環境活動論 環境科学科2年次環境と社会コース必修科目 受講者43人

発 表：井尻裕子（レンジャーズ事務局）



「市民環境活動論」の講座にて、自然環境復元協会と中間支援組織の役割を説明し、レンジャーズプロジェクトの仕組み、企業との連携、参加者募集の工夫などを紹介した。また、講義後に試験を実施、イベントプログラムの企画という問題では、個性的な回答が続出した。

< 受講後の感想（提出レポートより抜粋） >

- ・自然保護活動や緑化活動をするにあたって、環境を知る人だけが活動を実施したり、企画したりするのではないということがわかった。
- ・環境活動を学内のサークルでおこなっている自分としては、非常に参考にできる部分が多くあり、とても充実した講義であったと思いました。ステイクホルダーのニーズのズレというのは、日頃の活動の中で感じていたこともあり、中間支援という考え方を、今後の課題にしていきたいと思います。
- ・最も関心した点は、参加者のハードルを下げることです。環境活動において最も、かつ誰もが感じていることは「興味はあるけど参加方法が分からない」だとも思います。このことを理解している上での、参加費の無料というのは「試しにやってみる」には、うってつけの場所だと思い感心しました。
- ・「ボランティア」という言葉の響きは素敵ですが、正直あまりひかれるものではありません。自分から「私は良いことをしようとしている」とアピールしているような気がしてならないからです。しかし今日お話を伺ったレンジャーズプロジェクトは、ボランティアという言葉の響きよりも、もっと惹かれるものがありました。それを体験してみたいな、と思いました。

場 所：明治大学

日 時：2012年12月14日（火）

内 容：市民参加による環境保全の事例として、レンジャーズプロジェクトの紹介

メディア名：J-wave (首都圏 FM 局 81.3MHz) LOHAS SUNDAY (日曜 6:00-8:45 放送)

日 時：2012 年 11 月 11 日 (日) 8:30AM

内 容：2012 年 11 月 15 日 (木) 開催のレンジャーズプロジェクト (夢の島公園) のイベント告知

同番組ホームページ (<http://www.j-wave.co.jp/original/lohassunday/>) より



参加者が刈り取ったソバを一つ一つ丁寧にたばねる金子君

同番組では、2013 年 1 月 13 日 (日) に「環境活動に取り組む新成人」として、レンジャーズプロジェクトに多数参加し、リーダー (引率) も努める独協大学の金子雅佑君が紹介され、これから目指すことなどを語った。

メディア名：FM 横浜 (首都圏 FM 局 84.7MHz)

E-ne! (イーネ) ~ good for you ~ ! (毎週月 ~ 金曜 13:00 ~ 16:30 放送)

日 時：2012 年 11 月 21 日 (日)

内 容：夢の島熱帯植物園より、レンジャーズの活動現場に FM 横浜の DJ、穂積ユタカ氏が来場し、活動の様子をレポート

メディア掲載等

メディア名：FM 横浜（首都圏 FM 局 84.7MHz）
 E-ne！（イーネ）～good for you～」（毎週月～金曜 13:00～16:30 放送）
 日 時：2012年4月12日（日）8:30AM
 内 容：レンジャーズの紹介、4/15（日）の鎌倉の活動の紹介ほか

同番組 blog（<http://blog.fmyokohama.jp/ene/>）より



12.実施団体より

レンジャーズの活動と自然環境保全

自然環境復元協会レンジャーズ担当理事 立川 周二

ここでは、レンジャーズの活動が、自然環境の保全につながるという話をします。「里山」という言葉が、日常に現れてきたのは、それほど古いことではありません。とくに、2010年に名古屋で開かれた、国際会議 COP10 以降、次第に注目されるようになりました。COP10 は、地球上の生物多様性をまもるために、世界の人類がどうすべきか、話し合われる会議です。そこで日本は、「里山方式」を提唱しました。日本の自然環境における、里山とよばれている環境に、豊富な生物がすんでいるという、事実に基づいています。これは、歴史的にみたととき、近世までの人の営みは、自然を破壊したのではなく、よい影響を与え良好な環境がつけられた事例を指しています。これまでは、「自然環境」は放置しておくのがベストで、人が働きかけるのは自然破壊であると考えていました。しかし、環境をまもることは、放置することばかりでなく、人手を入れることも必要であることを主張したのです。里山では必要に応じて、草を刈り、枝を落とし、木を切り倒すこともありましたが、しかし、資源の消費を適度に抑制し、巧みに自然の循環を応用し、持続的に自然と共生してきました。その結果、日本は世界に誇る、生物多様性のホットスポットになったのです。

現代では多くの人々は、大都会に住んでいます。一極集中が進み、全人口の 1/4 が首都圏に住んでいます。都市の中で緑が見られるのは、公園と河川敷など、僅かな空間のみです。コンクリートに囲まれた生活に、都市公園の果たす役割は重要性を増しています。都市景観の形成、気象の緩和、交歓の場、安全な遊び場、災害時の避難所など、たくさんの機能を担っています。従って、都市公園の利用者は増え、ますます必要性は高まっています。もう一つ大切なのは、生物たちがくらす場としての意義です。つまり都市に残された自然的な部分は、公園にのみ存在することを認識すべきです。この公園の管理には、造園業など専門職ばかりでなく、補助的ではありますが、公園ボランティアの果たす役割が、大きな力となっています。

自然環境復元協会の主な目的は、自然環境の保全と再生です。これを実行する一環として、レンジャーズプロジェクトが発足しました。別項で報告しているように、多くの協力者が得られて、受け入れ先の評価もますますです。レンジャーズの活動は、単なる力仕事のお手伝いではなく、人と自然の共生を実践する実学でもあります。例えば除草の作業を取り上げると、草払い機を使用して、ある時期に画一的で一斉に、雑草を刈り取ればよいではありません。公園のような、人の出入りの激しい場所では、どうしても強い外来種がはびこり、弱い在来種は消えてしまいます。外来種を放置すると、大変な勢いで増え、その種ばかりの草地になってしまいます。在来種を積極的に選んで残し、外来種だけを除草することが必要です。そのためには、一本一本の草を見て、確認しながら抜き取ることもあります。機械の作業から見れば、非能率的で根気のいる作業です。この様な作業には、ある程度の手手を必要として、ボランティアの活動が最も適しています。できれば多くの人々が参加して、人海戦術とするのが望ましいのです。公園ボランティアが、入念に手入れをしている所では、在来種が美しい花を咲かせ、チョウや野鳥が数多く飛びまわっています。都会人のオアシスとして公園本来の姿であり、潤いと憩いの場所を提供しています。しかし、ボランティアの仲間にも高齢化と少数化がすすみ、活動を全うできない所が増えてきました。この様な隙間を埋めるのが、若いレンジャーズの存在です。花壇のカラフルな花ばかりでなく、都内でも本来の自然的要素を残し、生物多様性を持続させることが大切です。私達は、都会とは言え生態系サービスが受けられるような理想的な環境づくりが、レンジャーズの目標であると考えています。あなたの力を必要としています。さらなるご協力をお願い致します。

自然と人の多様性

- ビオトープ・ネットワークとヒューマン・ネットワーク -

自然環境復元協会レンジャーズ担当理事 上原 励

私は当初、当協会の認定資格「環境再生医」講習会の講師や、広報誌「NAREC ニュースレター」の担当として、協会運営のお手伝いを始めました。東京を中心に活動が始まったレンジャーズプロジェクトについても、その広報誌編集作業を通じて関わるようになりました。東京だけでなく、より広域にレンジャーズ活動を広げていきたいとの構想に共感し、埼玉県在住であることから、埼玉県内でのレンジャーズ活動の立上げ・任務遂行に参画することとなりました。

レンジャーズ活動の意義

日本の自然環境、とりわけ「里山」と呼ばれる地域は、人と自然とのかかわりのなかで形成され、維持されてきました。一方、都市公園や団地の緑地などは、かつてあった自然環境を取り込んだり、規範にしたり、新たな思想の下で設計されたりしながら人工的に作られたもので、当協会の有賀一郎理事は「町山」という概念・用語を提唱しております。

レンジャーズ活動は、これら「里山」「町山」の自然環境に働きかけ、その多様性を維持し、それぞれのビオトープの質の向上をさせる活動に他なりません。さらには、個々のビオトープの質を高めることで、飛び石的なビオトープ・ネットワークの形成に寄与することが見込まれます。

また、レンジャーズ活動には、多様な方々にご参加いただいております。その属性情報は「活動概要」の中で紹介・分析されていますので省略いたしますが、この人の多様性が、見事にレンジャーズ活動の中で発揮され、個々にそれぞれ個性的な働きをして、プロジェクト全体を成り立たせてくれています。指導的な立場で現場を統括してくださる方もいれば、淡々と単純な作業に集中してくださる方々、初めて会った同士で「おしゃべり」をされる方々もある。この「おしゃべり」の場が提供できていること。これもレンジャーズプロジェクトの成功の一因となっています。コミュニケーションによって人の和が広がり、環境保全に関する情報交換ができたり、別の地域での活動の話が聞けたり、さらなる友人・知人への働きかけなどにもつながります。レンジャーズ活動に関わっていると、人の温かさを感じることが出来ます。参加者同士の交流だけでなく、地域の方々が温かく迎えてくださる。地域の方々も、若い人たちが入ってきてくれることで、元気になってきます。

今後の課題と展望

このような維持管理に関する取り組みは、継続されてこそ意味があります。そのためには、それぞれの地域を任せられる、地域密着型のリーダーとなる人材の発掘・育成が必要であり、そのキーマンを中心に人的なネットワークが形成されることが必要です。これらの課題に対応するため、より広域的な連携を通じて、講習会・現地観察会などの学習機会を設け、参加者の知識向上や能力開発の機会をつくらせたいと考えております。

自然と人の多様性向上、無理なく活動が継続できるネットワークの形成のため、より多くの方々の参画を希望します。

おわりに

文末ですが、レンジャーとして作業に参加して下さったみなさま、まだ現場にはでていないけれど興味をもって登録して下さったみなさま、現場でのご指導やさまざまな調整をして下さった受け入れ団体みなさま、レンジャーズを温かく迎えて下さった地域みなさま、運営スタッフを含めてレンジャーズプロジェクトにかかわって下さったみなさま全員に、心からお礼を申し上げます。

私の生まれ育った町は、横浜でも緑が多く、夏休みといえば毎日のように近所の山へ出かけ、虫捕りをしていました。そんな子供にとって夢のような場所が、ある日突然、木が伐採され土地の造成が始まり、開発されるという光景を何度も見ました。子供ながらに、「これは何とかしなければ」と思ったのが、私が緑に関心を持つようになった原点です。子供の頃にそのような思いを抱きつつも、子供では何も出来ず、大人になったらいつか・・・と漠然と思いを馳せ、そんな思いから、地域の里山保全の活動に関わるようになって、10年以上経ちました。仕事をしながらの市民活動ですので、十分に活動出来ずに、他のメンバーの方には恐縮ですが、マイペースで関わりながらも、細々と関わり続けています。こうした地域の活動団体は、全国に1万程度あるのではと言われてはいますが、地味であり「環境オタク」が好きでやっているように思われる向きもあります。しかし、地域の環境の保全というのは、極めて重要な事です。私の地元でいえば、ホトケドジョウやゲンジボタルは、人がそこに住む遥か以前からいたにも関わらず、人間の行為によって棲みかを追われ、絶滅の危機に瀕しています。また、里山として何百年も存在してきた森が、人々のライフスタイルの変化により、里山としての生態系が崩れてしまうと、やはりそこでずっと暮らしていた生物が生息できない環境になってしまいます。

月に1~2度程度ですが、近所の雑木林に入り手入れをするのは、とても楽しいものです。普段使わない筋肉を使い、自然と対峙することは、人間が自然の中で暮らすために培ってきた五感や感性を引き出してくれる感じがします。私は動植物の種類には詳しくはありませんが、里山の中で体を動かすことは、知識など関係なく、単純に実に気持ちの良いものです。四季折々に全く違った表情を見せてくれるのも魅力です。「こんな気持ちの良いことを、自分達だけで味わうのはもったいない。これは誰でも味わえる気持ちの良さだから、もっと気軽に雑木林の活動に参加できる人が増えればいいのに」と思っていました。また、「青年海外協力隊というのがあるのに、なんで国内協力隊がないのか?」とも。そんな中、レンジャーズプロジェクトと出会いました。自分のフィールドのボランティアを募集する団体は沢山ありますが、地域の草の根の活動団体に人を派遣するような活動は、あまり見かけなかったので、「これは面白い」と思いました。ローカルの活動団体や、こうした活動を希望するが、参加の仕方が分からない、というニーズについては、本報告書本文をお読み頂くとして、実に社会ニーズにマッチした取り組みだとの思いがあり、事務局の河口さん、井尻さんにお声掛けを頂いて、微力ながらレンジャーズプロジェクトのお手伝いをさせて頂く事になりました。

東京の現場などでリーダーをしつつ、色々な現場を拝見すると、地域の活動に参加している者としては、それぞれの現場で皆さん様々な知恵やノウハウがあり、大きな学びがありました。そして、私の地元である横浜でも、NPO 法人よこはま里山研究所と一緒に、よこはま里山レンジャーズを立ち上げる事になり、お手伝いさせて頂きました。全ての現場にリーダーとして、隊員の皆さんと訪れていますが、どの現場も皆さん独自の工夫に満ちており、大変な面がありながらも、楽しみながらやっぴらっしゃる様子は、大いに励まされ、また仲間が沢山いるんだ、と心強い気持ちになりました。また、レンジャーズの隊員の方の殆どは緑の活動経験がない方ですが、自然の中で体を動かし、森が綺麗になっていく気持ち良さを味わっていただくと、皆さんの心からの笑顔が溢れてくるのです。そうした場を共有する事は、本当に心が豊かになる瞬間だと思えます。資金繰りなど活動を維持していくには困難が付きまといますが、こんな素敵な活動を、維持発展させていくことのお役に立てればと思っています。皆さんのご協力が不可欠です。レンジャーズに参加された事のない方は、是非一度、レンジャーズの現場にお越しください。

運営スタッフ

伊藤 博隆

佐々木 堯之

金子 雅佑

高瀬 唯

丹野 優

加藤 晶子

野地 茜

上遠野 なぎ沙

宮島 裕

玉川大学 インターン生の皆さん

自然環境復元協会 常勤スタッフ

河口 秀樹

井尻 裕子

自然環境復元協会 理事

立川 周二

速水 洋志

上原 励

平成 24 年度 レンジャーズプロジェクト 成果報告書

発行日：2013 年 3 月 1 日

特定非営利活動法人自然環境復元協会

レンジャーズプロジェクト担当

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 1-3-13-301

TEL 03-5272-0254

FAX 03-5272-0278

E-Mail info@narec.or.jp

URL <http://www.narec.or.jp>

